

小笠原島紀事

十四

和一九五號

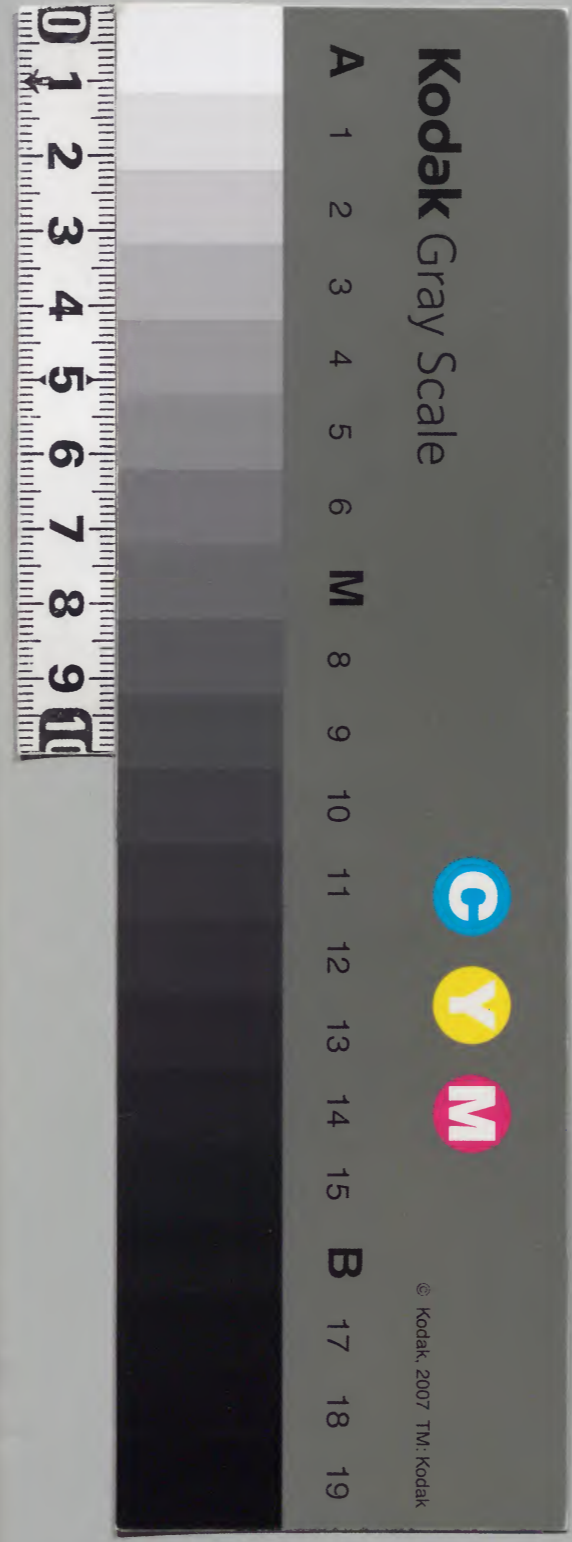
從文久三年十一月四日  
至元治元年五月四日

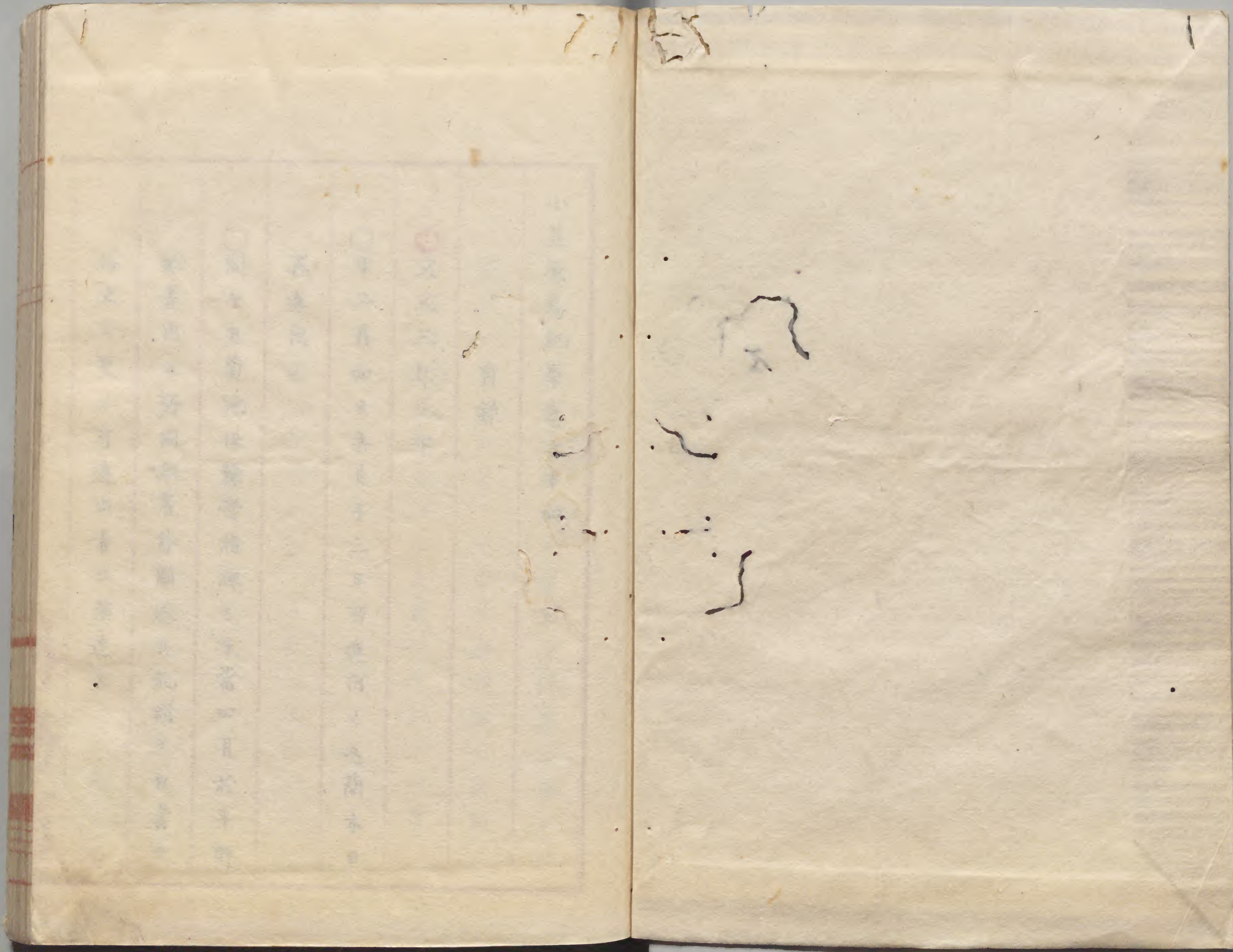
第百三十一號  
第二類

和書類  
一四一六五  
三三  
二七一函

內閣文庫  
和書類  
一四一六五  
三三  
二七一函

內閣文庫  
番號 和 14165  
冊數 33 ( 16 )  
函號 271 69





Faint vertical text columns on the left page, likely bleed-through from the reverse side. The text is mostly illegible due to fading.

Dark ink smudges and marks on the right page, possibly remnants of a stamp or handwritten notes.

小笠原島紀事卷之十四

目錄

○文久三年

○十二月四日去月十三日所進出ノ返簡本日

○再進出

○同七日菊池伊豫守指揮シテ當四月於平野

船差出ス所同船雇外國人共紀明ノ口書ヲ

俗文ニ更メ可進出音ヲ演達ス

小笠原島

○就右犯罪ノ最初ヨリ横濱ニ連来リ岡士へ  
交付スル迄ノ大意書ヲ作り外國人共六名  
ノ口書ヲ副テ伊豫守ニ進出ス

○同大意書

○同外國人六名口書

○同月日附不詳鎖港談判ノ大事件アレハ小事ニ

論争ヲ費スハ却テ後害ノ端緒姑ク因循シ

小立其事ヲ折衷シ半彼ヲ宥メテ請求ニ應セサ

○凡リ返翰投達可然ト外國奉行連署シテ申

○稟書陳奏同致

○同申稟日發盡

○同返翰案

○同十日閣老外國奉行ノ申稟ヲ採用ス

○同日本日ノ日附ヲ加ヘ公使館へ達ス

○同十五日亞公使又償金請求ニ同意ナキ時

ハ兵カラテ談判ヲ遂ヘク此談判治定ナ

キ限ハ使節發遣若推テ發遣ストモ其詮ナ

カルヘキナド數件ノ書翰ヲ進出ス

○同來翰譯文

○同廿四日閣老連署シテ池田筑後守河津伊

豆守河田貫之助等ヲ歐米始各國へ使節ト

シテ近日發遣ノ報知ノ書翰ヲ贈ル

○同書翰案

○同日荷蘭公使ハモ同断以書翰ヲ達ス

○同日屬日請求ノ事件談判未決ノ間ハ本國

へノ使節周旋アルマシキトノ旨趣ハ懇親

之間ニハ不相應ナリ何レニモ別紙發遣ノ

報知本國政府へ通達アラシキ事ヲ請フ旨閣

老連署ノ書翰ヲ達ス

○同書翰案

○同日善福寺焼失後亞公使横濱滯留同寺再

建ヲ待ツニ其事遲延催促數回ニ及ヘトモ

夕

夕

未再建ニ至ラス然ルニ属日善福寺焼失ヲ  
始數件ノ償金ヲ請求スレ氏彼日所請ニ應  
セサルヲ憤リ士官ヲ引卒シ推テ出府セン  
事ヲ報知ス因テ未夕時機其場ニアラス今  
暫ク出府然ルヘカラズトノ書翰ヲ達ス

○同書翰案

○同廿四日去ル十五日亞公使ヨリ来翰中ホ  
トツシ一件ハ中濱萬次郎始其節事件ニ関

○係者同國岡士今一應面晤懇々談判セ

○ハ條理ナラン事ヲ外國奉行連署シテ上申

○又此

○同申稟

○同指令

○同廿七日亞國岡士ハ書翰案ヲ草ニ閣老

○ハ進達ス

○同書翰案

○同日許可ノ指令

○同日同心ニ書簡ヲ齎ラシ遮達ヲ命ス同心  
鞍馬ニ鞭ヲ加ヘ馳テ横濱岡士館ニ達ス

○同廿八日小花作之助中濱萬次郎原又吉ノ  
三士横濱へ出張ス

○同廿九日三士岡士ト應接ス

○同對話書

○同晦日三士歸府復命

○同日先是去ル十五日亞公使進出スル所ノ

○善福寺焼失ヲ始神奈川事件且ホーツシ一

○條彼本國政府ノ命ナリト唱ヘ償金ヲ強情

ニ請求ス斯テ書面ノ往復ニ時日ヲ費ス間

○ニ如何様之ニ都合生ラシキ計リ難シ仰願

○閣老出張シ談判スル歟又参政ヲ遣リテ説

○破スル歟ノ間至當ナルヘキ旨ノ申稟及返

○翰案辨駁書ヲ草ス

夕霧

水務

○同申稟案書草案

○同返翰案書草案

○同辨駁書草案

○同橫濱工商等亞人ノ負債催促一件神奈川奉行へ顛末ヲ糾明シ申稟スヘキ旨ヲ達ス

○同神奈川奉行取調書

○同日亞國公使又本國政府ノ命オリト唱ヘ

○長州償金ヲ請求ス書翰ヲ進出ス

○同右ニ就又局中ノ議變シ閣老及參政間事  
件ヲ辨駁ハ姑ク閣キ只返翰而已ヲ贈テ神

○奈川事件ハ神奈川奉行ホリツ無條函外

○國奉行ヲ應接止ニ熟談スヘシトノ旨趣ヲ

○通達スル方可然ニ評決ス

○同十九日去ル十五日亞公使ヨリノ來翰譯

成同日返翰案ヲ草ス

○同二十四日淨書ニ對テ

夕

水務



○同晦日再々正真ニ進達ス

○文久四年 三月朔日改元 元治

○正月四日舊臘正直ニ進達スル所ノ返翰案

交還十二月晦日ノ附ヲ加ヘ神奈川方ヘ

交付亞國公使館ヘ贈達ス

○同日舊臘廿八日進達スル所ノ横濱工商共

亞國人ヘ負債催促ノ一件ノ返翰モ本日交

還因文右同贈達ス

○同日舊臘晦日亞公使ヨリ進出ス長州償金

一件催促ノ書翰注視ノ申稟ヨリ來翰譯文返

翰案ヲ添進達ス

○同申稟

○同亞公使ヨリ來翰案ヲ添進達ス

○同返翰案

○同廿六日返翰案施行スヘキ旨ノ指令アリ

テ交還

○同日本日ノ日附ヲ加ヘ贈達ス

○舊臘ヨリ早春マテノ形勢崖畧

○同月日附不詳外國奉行竹本隼人正竹本甲斐守

横濱出張談判スレテ復肯セス

○右談判整難キヲ察シ尚外國奉行議シテホ

一ツンハ八十有余ノ極先且病體愍然ナル

ヲ名トシ出格ノ仁惠ヲ以テ眷養並船中費

用トシテ洋銀千弗ヲ恩賜アルニ談判ヲ纏

○云ル方可然ト決議其旨ヲ申稟矣

○同申稟書

○同許可以指令

○右事件竹本甲斐守擔當能談判數回遂ニ熟

話ス

○四月廿日一件熟話ニ及テ謝辭下

老連署ノ書翰贈達スベシト案ヲ草シ本日

進達

事務

夕

○同廿二日外國奉行連署賜銀ノ添翰ヲ草シ

進達ス

○同廿七日神奈川奉行賜銀神奈川税關ノ銀

ヲ以テ投與スヘシトノ達案ヲ添去ル廿日

○廿二日兩度ニ進達之書翰案交還

○同神奈川奉行へ達案

○同閣老ヨリノ書翰案

○同廿九日本月ノ日附ヲ加へ兩通共神奈川

方へ達ス

○五月四日亞公使及同岡士ヨリ賜銀收領ノ

書神奈川方ヨリ達来ル

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]



小笠原島紀事卷之十四

本年三月大將軍德川家茂上洛 鳳闕ニ参上

龍顏ヲ拜ス先是鎖港ノ勅諭屢了リト雖モ左

之右之其實効ヲ奏マザリシカバ同四月廿一日

外國拒絶五月十日期限タルヘキ旨更ニ勅命

ヲ下サル幕府ニ勅旨ヲ遵奉シ閣老圖書頭小笠

原長行ヲシテ横濱在留各國公使ニ邦内人心外

交ヲ好マズ勤モスレバ外國人ヲ圖ニトスル者

衆ク政府殆シト謀慮ニ困苦ス因テ天朝幕府ニ勅シテ各國ニ説諭シ横濱長崎箱館ノ三港ヲ鎖シ外交ヲ絶シム請フ各位其之ヲ領セヨト説シム公使等之ヲ首肯セズ己ニ條約ヲ結ビ永ク互ニ渝ハラサル旨ヲ盟フ今其盟ヲ破ントスルハ是意外ノ變也變ヲ謀レハ亦隨テ變生ラシ固吾儕ハ本國ノ命ヲ受彌々益々交際ノ篤キヲ修セン為ニ在留シ乍ラ爭テ拒絶ノ談判ニ関リ

且縱ニ西國ノ交不交ヲ決センヤ是非ハ姑ク閑キ推テ鎖港ノ商量ヲ遂ニトナラバ本國政府ニ謀ラルベシ吾儕ノ進退ハ帝本國ノ命令ニ從ハレ而已ト答ヘ其勢勢確然トシテ毫釐モ動ク氣色ナシ此應接數回ノ後竟ニ使節ヲ海外ニ送遣スベシト廟議決定リ外國奉行筑後守池田長博ヲ正使ト為シ同職伊豆守河津祐邦ヲ其副ト定メ監察河田貫之助ヲ差副鎖港ノ談判ヲ為サシ

ノニトス施ノミナラズ本年五月七日七利宰相  
奉勅攘夷ト唱ヘ其領内長門国赤間関ニ於テ  
亜米利加ノ高船ヲ砲撃ヲ始トシ其後英佛蘭等  
ノ軍艦ニ発砲セシカバ以上ノ国々其暴行ヲ幕  
府ニ督責シ償贖ヲ促スノ時ニ奮リ亜公使ガ假  
使臣館善福寺ノ祝融モ放火ナルベシト狐疑ヲ  
懐キ島有諸品ノ償却ヲ債リ之ニ加ルニ生麥事  
件ノ未已當五月菜国逼リテ兵端ヲ開クベキ形

勢ニ推遷リ在留ノ外国人ハ姑ク其地ヲ避ケ内  
国人ハ老幼婦女ヲ扶ケ去ラシメ不測ノ災厄ヲ  
免ルベシトノ布告アリシヨリ土地ノ騷擾昂涌  
ノ如シ此時亜国人ニ債ヲ負セシ者催促ニ及シ  
テ暴行也ト唱ヘ己ガ非ヲ蘊ニ負債ヲ不償耳非  
ズ是ヲ辞柄トシ其償贖ヲ政府ニ督債ス在斯事  
件輻湊ノ時ニ臨ミ僅ニ小笠原島罪人ノ小事件  
ヲ説破シ假令充分ノ勝利アリトモ餘事數件ノ

中鎖港ハ最モ国ノ大事一旦親睦ノ條約ヲ結ビ  
今及覆シテ交信ヲ断ニトス其聲牙彼ニ理アリ  
テ此ニ理無ケレバ布留那ノ辨古ヲ以テ説ク凡  
成功ノ難キハ必然タリ然ル大事ヲ眼前ニ置キ  
小事ニ募ルハ無謀ニ通ニト内議紛紜未翰ト共  
ニ進達スル所ノ返翰案モ其儘閣老ノ手ニマ留  
リケン可否ノ指令モ無ク十一月モ空ク過ギ十  
二月ニ至レドモ何ノ沙汰モ無シ抑方今亞国公

使ヨリ件々苦情申稟僉償金ヲ債リ取ラニトノ  
較計ニ出レバ十二分ニ辨駁セサレハ彼容易ニ  
服スベカラズ如此因循數十日ヲ將ル時ハ彼ニ  
論説ノ種ヲ与フノ慶分ニ當リ益募リテ辨論ヲ  
立ベシ然ル時機ニ至ラサル前ニ辨解ノ神速ナ  
ルコソ肝要ナレト同日再ビ先月十三日正直  
ニ進達セシ返翰案ヲ閣老遠江守有馬道純ニ進  
出ス閣老ノ高議事情不貫徹ノ事アリケン同

七日外国奉行菊池伊豫守隆吉指揮シテ平野船  
雇役ノ外国人六人ノ上稟解シ難キハ宜ク通俗  
ノ文ニ更クノ進出サセシム當時小花作之助既  
ニ帰り在ルニ因リ實地ノ慶分且大意書ヲ作り  
六人ノ口書ニ附ス其書如左

大意

一 平野船録概カ洲南支四月廿日夕小笠原鴻ノ立由リ港外足湯ニ停  
ニ渡派致一ニ詳録概カ為ル所衆組以外五人六人共下先父島流ニ之居

宅ニ端船ニ与ル由リ詳カウケルレムスニスニ中者五人ニ之所為物ヲ取出  
對ニ府中給料ニ送送ニ之成働方ニ之在官ニ付帳不差卷ニ茶ニ為  
物録カ渡派身中誤カ知同口ニ上陸ニ多ク在スニスニ同所居在ハ三ヨ一  
ホ一ツニニ中合聖教短筒ハ玉込等ハ多ク一ハ相携ハ舟船ハ居職衆移  
イ節右筒ニ誤カ五箇同知カ紙ハ者ニ内ニヨニウケルレム又誤カ玉込有  
クイ有虫ニ水ニ印シ其後中誤カ次節ハ洲外百ノ速以味カ紙ハ為花  
物法カカ紙右筒ニ持系テハ紙カ違テテ有虫紙右捕所日廟ノ浦  
以波洲ニ方ニ連系カ以キ窮カ押込食事ホ多南洲ニ卷ニ魚民同集



夕務書

前件ノ次才物坊ノ中渡部ホーツニ儼前ノ不坊ノ不業等も有ク事杯  
中出ノ者も有クハ以テ及ニ事ニ關係不致候モ然レモ令ク此事柄ノ關係ニ  
中出ノ之左ノ通口書を取り五月廿九日平野江(衆細セハ前大村ノ  
斥宅ノ上ニ紙ホーツレノ中ニ海ノ名物等悉ク取纏取中一坊迄  
同人持地所ノ後モセムススミス中モハ一対ノク讓渡ノ以テ成  
正月中水野筑後守及今同人持地取受ノ以テ前種柳ノ渡ノ地重以テ繪圖  
も在スミスハ取讓リ其代名物ホレ之ニ付又月朔日小笠原鴻出帆同月  
十日横濱喜ノ運渡リハ前前件ノ次才物坊江ノ表ハ如何以上ノ事細羅

状ノ次才中渡方所御兼同心松浪権ノ悪果人目付林和一前よりコンシユルハ  
中渡部罪人ホク申口大取違之候ニ及テ取取リ為引渡漸高由府仕在知  
同月廿日ホーツンノ中出ノ次才も有クハ前種一應小笠原鴻出連兼是官  
ニ引合渡部コンシユルハ中出ノ紙ニ有右之人ノ其ノ又ハ横濱表ノ其紙終ノ事  
ノ通中渡部右取罪状取違モ有ク上テ支ノ罪科ノ事立テ改ホーツン候モ  
由渡部ノ取戻形出ハ大其後モ延取成筋ノ付亞小サンフラシユスコ(是レ  
中々迄モ中出ノ者取取られ候モ以テ取取ハ極中渡部知事及以後  
引合ハ候モ之ノ者コンシユル中出ハ由府仕ハ候モ以テ

夕務書

中溪万次所相乳の六人の口書

一 ベンシヤムウイルムス

但此者、魯西亞船が不快、舟小笠原港へお残り、ホーワンの隣、借家致し、  
一 庄聖致、又しス、ホーワンのホヤ舎、お船より其場へ、庄舎の舟、お取返し、

口書

ス、スガ、ホーワンの向く、お我、荷物と取戻方、助カセ、て、不物、え、事、と、世、  
分ち、おふべ、一 且、何と、持ち、け、く、我、と、助、る、と、い、ひ、一 一、短、筒、と、持、参、り、

一 荷物、取、戻、方、お、好、む、もの、あら、ハ、我、主、と、折、合、る、べ、一 一、ホーワンの、い、ひ、一 一、由

一 エヨシキヤルレス

但此者、ホーワンの同居人、お其、前、に、松子、お、乳、一、の、前、に、口、書

ホーワンの後、ス、ス、く、荷物、と、取、戻、方、お、船、に、所、需、管、と、貰、ひ、後、編、中、守、り、お、不、持、  
各、く、取、戻、方、お、知、り、家、内、お、好、む、也

一 セームススス

但此者、二月、中、入、港、有、り、カ、サ、ン、ト、ー、イ、ス、鯨、糞、お、り、り、小、笠、原、港、へ、  
上、陸、お、致、し、お、の、こ、く、中、溪、万、次、所、に、お、雇、手、お、取、り、一、年、組、い、ち、の、付、お、乳、  
一 節、中、守、り、口、書

ウイルムスミス、お、我、船、へ、同、行、し、て、荷物、と、取、戻、一、其、中、守、り、一、其、  
其、後、お、不、持、い、る、お、船、入、港、お、り、合、い、一、我、主、り、中、溪、へ、乞、ひ、お、荷物、お、取、戻、

方二枚の今口と船一申くなられと申せし由

一 フ井レフアホーベニ

但此者ハ前同引ノ船中漢方源郎雇上ル由ノ船中重ノ船  
いとの二付ね紀の節に書

ウイルレムスミス船中糸紐中ノお業とよく取知民在ハハ實ニ不埒ノ

次有在名物取戻としく申船ハ今日ゆく事ハ不置と禱船中よく

申せしハホーワニ立揚りな船中ハ知ウイルレムスミス申振若し

名物取戻ハ前叙對きものあらハ我丈と折倒まへといひし由

一 シヨニウイルレム

但此者ハ前村恒作ノセイホしと申もの方ニ同在民在ハハのよく申  
漢方源郎ノ雇上ル同叙對きものあらハ我丈と折倒まへといひし由

翌日平野船ハ船中前大村ニホーワニ糸紐ハ取と取扱ハし

不足なく付取船ハ及名中後ハ一才持申糸込ハ且又スミス名物と取

戻ノ為ニ取船ハ漢方源郎ニ名換申すなりしと申字ハ付付也ハ名換

と不致ハ名取船ハ其内申船ハ船取取取何事ハ糸移リハ一才根リ端船ハ

川残り船ノ始末ハ漢方源郎ハ知ホーワニ糸移リハ船玉込政ハ有ハハ短

筒と取船ハ舟右筒ハ取振振取不取成振水ハとと一申候ハお酒ハ

其名所ハ並ハ知時別十五分程とくホーワニ来りしハ我為せし短筒

と云ふなり。いひ。石汝右衛門。不と云ふ船。持来せ。い。是。不坊  
あり。と。十。浪。い。飯。

一 ベンジノレモ一キ

但し。省。ハ。大。村。住。居。の。子。ヨ。ジ。グ。ラ。ホ。ー。と。中。者。方。の。同。居。居。立。カ。ナ。カ  
人。ト。中。深。万。次。郎。ニ。被。雇。同。船。了。い。い。もの。二。付。お。紀。の。并。い。の。書  
ス。ス。端。船。の。中。船。ハ。紙。の。船。中。い。く。我。為。物。と。云。居。一。ニ。紙。之

とも。若。一。我。二。歌。對。ま。の。の。あ。ら。ハ。抄。教。の。中。を。相。出。一。居。と。云。ふ

りの飯

石。之。外。お。紀。の。もの。も。有。り。ハ。其。場。所。に。関。係。不。成。い。付。お。ん。故。不。中。は。既

中。立。い

先月十三日及當月四日進達シタリニ返翰案ハ

細論ニ且リ一時彼ヲ壓倒スルノ利アリト雖モ

先今度ハ強テ曲直是非ヲ論セヌ撮示ノ返翰ヲ

贈リ彼ガ督促ヲ防キ漸次ヲ以テ辨駁セバ却テ

説得ニ易カルベシ今彼ノ請求理リ無キヲ責メ

ハ必憤排シテ鎖港ノ談判ニ障碍ニ長洲償金及

善福寺焼亡ノ事ニ嘆惜ノ説ヲ立ルニ至ラハ後

日ノ災害ヲ釀スハ顯然也ト復返翰案ヲ草ニ上  
陳ヲ附シテ進達ス

西墨利加公使より美出候長文書翰翻譯一説仕候處神奈川表取扱  
涉仕候条件多分ニ此程同所奉行ノ事下相成事情巨細取調申上候  
様仕候事申上置ハ大右書簡取返簡ニ依テ相限モ此程取事ニ付取調  
取候後日ニ相讓リ差向ハ換抄云々ニ付必苦情可申出哉被存口官換抄  
返一熟読取候仕知申立之物件ハ南支四月中善福寺焼失候  
政府思召ハ此程取候致リ程ニ取根テ事取附合致一矯証之錯説ト推

一備令之儀本國政府より中誠ハ杯取出ノ事ニ有之右ハ彼最妙  
若情申立ノ事も有之私大毎度引合ハ事美了解致シ候事  
其折柄治合ハ之の不遺等ニ至リ返一始末書取書簡ハ以領取左  
取不取政府ハ中誠之儀ハ其通被成是知右取始末ニ及リテ政府之  
命令ハ中誠中己より建議不仕ハ左近巨細之儀中誠所謂ハ云々  
以テ和親取扱ハ為中誠ハ相誠ハ取中誠ニ惡一取申上ハ却取  
媒藥致シハ助合ハ愈以可惡ニ至且其職掌ニ對シ不仕取扱  
被存取可嚴密取破仕取之取一誠各國公使取都下在為可仕取條約

東海市安守

丹  
彦

明文の所事在右と不守彼方より引退いしは方より為立退いし  
 何れも條約違反の節に既先年西書記官報告被致し并英佛  
 桑公使大橋派へ退去仕の砌西不先任公使ハルリス而已西國政府の懇親  
 之廉と被し取下ニ在る事同入重任之儀彼方政府に此作を為  
 并右松之廉同入一入熟考之儀此作を以程之儀を右と以互視仕在  
 一此方より退去之儀此作入の事不都合之儀は其當節柄格  
 別此配意も有之云の撮り場合左當夏中強に橋派表へ右引取其  
 後出府之儀毎度申出も被是申拒之此の事之儀令若福寺焼失  
 不致いし事実は此方にも五分之強に有之書中申立之強に論取  
 仕兼の場合も不致統て幕中上置に通し西國公使候館取建方早  
 取取より有之此方も取扱振疵瑕仕儀云之松被為成格と説明仕方  
 可有之奉存の才二件橋派表駮立之折柄掛金催促之儀付以違  
 之廉と神奈川奉引取調申上の儀も可有之は先私大儀込の如く  
 此方との分己不置格と相関不中彼方にも短銃亦右向松之  
 取行有之由府是以償金亦申立在筋合とて不致存將又未件  
 小笠原住民之儀之支配向並其節不連誠の鯨捕船禁組しとの云

不致いし事実は此方にも五分之強に有之書中申立之強に論取  
 仕兼の場合も不致統て幕中上置に通し西國公使候館取建方早  
 取取より有之此方も取扱振疵瑕仕儀云之松被為成格と説明仕方  
 可有之奉存の才二件橋派表駮立之折柄掛金催促之儀付以違  
 之廉と神奈川奉引取調申上の儀も可有之は先私大儀込の如く  
 此方との分己不置格と相関不中彼方にも短銃亦右向松之  
 取行有之由府是以償金亦申立在筋合とて不致存將又未件  
 小笠原住民之儀之支配向並其節不連誠の鯨捕船禁組しとの云



リ引合意ハ孰モ有之ク否唯今兎角之ハ近々答復セ被仰之ハナリ  
今一應引合ハ方ニモ可有之ハ然レモ其孰トハ未書ニ孰一辨駁ハ  
返簡被也可然奉仰ハ又償金被也方ニ付テ先般英事ナリ中立  
モ有之最初中立條約ハ拒カ成被是ナリ内軍艦等差裁  
手諾之談判ニ至リ竟、莫大ニ償金ハ居也、拒カ成ハ杯ハ不體ニ對  
如何、モ不都合中迄モ之ニ為断不折令之人心、モ愈々響答英事  
而重固於之モ右振子ニ見聞存立ハ事友ニ禮伊豆守對話之切因  
公使申立之孰モハ誰ハ居然モ、至リハ何極之至令之及ニ難討ハ可

其節ハ不都合不成就極先派中士立ハ長州各地之儀ニ付申立被  
高航之償金早ニ相渡シ其外彼我之際理非曲直分明ニ以裁断  
相成我振仕後左殿等ニ至リ見誠ハ節ニモハ誰ハ居然モ、大來書矯証之  
筋説迄長州一案ニ差加ラ之結句此方ハ不都合ニ臨ハ極成以テ中裁  
深ク憂慮仕ハ將又在留公使之儀ニ前中士以通事ニ和款取扱之  
為在誠居ハ節之知右振矯証之況中唱ハ杯以外ニ被存其他  
同人事神奈川表商人取締方ハ何廉不筋之儀ハ拒カ成被是ナリ  
度ハ使節彼國ニ被差也ハ序上ハ右等之廉ハ彼公政府ハ中裁立



以上事情齟齬仕々後相心汲尔後何人之不所致と相生して不  
都合之を極つて或て奉命に依り前院之趣を基き凡之事情  
取撮之に返翰兼取調奉入に院に在りて然らば思ふに支に憂立相附身  
本因政府於之に談判向に院後与伊豆守に依り波在候仕度奉旨  
此院以上以上

亥十二月

竹本甲斐守

兼池伊豫守

小笠原松津守

田村肥後守

池田筑後守

河津伊豆守

柴田貞吉郎

亥十二月十日

亞國公使可被差遣に返翰兼

亞米利加合衆國にニストルレシデント

エキセルレニシ

以上事情齟齬仕々後相心汲尔後同人之不所致と相生一々不  
都合之之根一々或或之奉取之依之前後之趣意之基之凡之事情  
取撮之也返翰索取調奉入也後に在て然は思ふ以て支之也憂互相附身  
本國政府於之之談判向ハ筑後守伊豆守一之仰波在候仕度奉旨  
此後中上以上

亥十二月

竹本甲斐守

兼池伊豫守

小笠原松津守

田村肥後守

池田筑後守

河津伊豆守

柴田貞吉郎

二百七拾六番

亞國公使ノ可被差遣也返翰索

亞米利加合衆國之ニストルレシテント

エキサルレシ一

042111+241124

ロベルト・エッペン・ブライン

英國十月廿四附才百三十六號之書簡爲手被申立の詭逐一領兼  
 俄初件若福寺燒失之儀之件云々被申越右々其折柄書簡を以  
 申入重口之已ならび外國奉引より以委曲之事情況所爲及既之  
 其許之し了解被致の式之し口百役令其奉國政府より越え趣  
 ありとも其許より辨明可被致依之心始店口知来書之詭々勢  
 愕之至一併和親之條約と結ひ互に信義を可表す勿論なるも  
 匪徒と暖誘し火と放ししやその疑を餘りし我政府と身視

せられし事にてあらまうしく我輩我國內人心免角に不穩なる其  
 人心之向背は従ひ外心と之を交と絶んとのことなれば終不爲極  
 あるべれが左に於て折角和親取結の甲斐もなく我等が是迄之  
 苦心も竟に空しく成りし殊に外人死するこゝとも諒察不致左迄  
 被申す事として我等も心外之至に致れども法中立法通り保金差出し  
 而て其許疑意之臆説と笑ふはるゝ勅令よりして政府之恥辱  
 此上もなき以てなれば其折柄中野君決て其名に在りし  
 勿論其政府より厳命より其許のより慶置被致兼に辱も

あらば今般其本國、可若を使節と為細引合可為及存候尤江戸  
表公使使館寺院之儀、既、其節、命、之、辨、も、あ、れ、ハ、進、建、築、之、運  
も、可、至、と、存、候、次、併、様、源、表、之、儀、同、所、奉、以、命、其、事、情  
と、為、取、調、し、れ、ハ、不、口、為、造、之、具、備、と、侍、之、候、と、回、答、及、ハ、ハ、ハ、も、若、其  
中、同、所、人、心、一、時、踏、立、折、柄、之、事、少、く、多、少、之、以、違、と、生、我  
玉、氏、之、不、法、之、振、舞、あ、り、し、も、有、之、事、故、に、此、方、之、其、の、  
法、而、負、債、と、督、迫、せ、し、其、方、之、氏、之、儀、拒、絶、せ、し、為、ハ、あ、ら、は、り、  
や、免、之、角、細、取、調、上、控、細、報、及、其、未、件、並、系、為、任、氏、之、儀、此、近、姓

復と成と一が未の事實徹底致す、其節、之、の、下、り、委、曲、と、為、及  
陳述儀、未、書、中、法、求、之、強、考、念、し、別、ハ、不、能、ホ、と、氣、之、毒、之、被、存、以、其  
理、之、所、在、之、據、前、言、と、述、儀、不、思、諒、察、被、致、為、事、書、大、城、寺、上  
之、折、柄、燒、失、が、し、彼、是、手、教、と、經、一、百、自、然、期、限、と、失、之、ん、と、心、配  
致、し、以、先、此、段、返、答、中、入、道、口、詳、具、謹、言

文久三年亥十二月 日

水野和泉寺花押  
板倉周防寺花押  
井上河内寺花押

夕 務 書

有馬、遠江守花押

正直之ヲ收領之同列ノ商議此迄翰業ヲ可也ト  
決ニ施行スベキ旨ヲ外國奉行ニ指揮ス奉行其  
旨ニ隨<sup>ツカ</sup>セ同十日ノ日附ヲ以テ神奈川方ニ達シ  
同所ノ公使館ニ贈ラシム公使己ガ請求ノ叶ヒ  
難キヲ憤激ヤシタリケニ同十五日左ノ書ヲ来  
タス

西国公使ト長出俵書翰蘭文和解

第十号千八百六十四年才一月二十日申神奈川合流国使長

館ニ於テ

水野和泉守

板倉周防守

井上河内守

右下ニ呈克

有馬遠江守

我合流国大統領の諭告ニ従ヒテ請求セシ儀令ト拒ミテ右下  
の書簡と余謹ク落子トシテ

夕 務 書

名下余と高議する事なく信誓の及と絶つ事一付余の警愕  
と心痛とと速に報告せらるべし

其拒みとせし一處の及理ハ甚く當然ならび○正直事と  
憂慮するは其国の不面目もあらび又耻辱もあらび○今般此  
の如き温順ある憂置ハ英国使長館の番兵と殺害せしと名下  
其僱令と拂ひし一併と同様と為し雖し此の如き僱令ハ然  
其一之事変と就く其政府首務の任と為せし一證據もあらび名下  
の余は因りて之れし一證書及び貴国政府より説述せし書

面の罵しと余大統領へ述べし○故に名下余の疑意と之れ  
こは此年の本に於て指部一般に知れし然れども之事變の  
證書と説述及び右事變と就き若し政府の互に拒と合流と大  
統領より勅考する為に確然する證據とあるべし  
大統領の決断ハ熟考の上より為しし事なれば之を棄し或之  
と止むる事ならざるべし

故に余此請求に就くハ令旨の定と止し此件と名下と告るべし  
外慮なき一即此後再び請求と為るときハ名下の合流を任向

する其費及び他の景況に後くは定りたる命令を増しは其費  
 の大統領より留する決定の如し右請求と保護するに必要  
 なるものは合衆国の兵費を増し得るに其費たる  
 余又此件と名し、若くは余の職掌より即ち此事件と名し  
 するは合衆国の大統領より余に命じれば名下の之より如くは事  
 と簡約な華盛頓府に於て談判するに事、使臣の条例に  
 戻りし後令強く之と拒まざるも此の如くされば大に時日と費し不  
 都合なり

余名下は志告以西政府の交際今名下の書翰中は所述の景況と改る  
 まるは合衆国の使節と名し、給るべし  
 此件と名し、若くは余の職掌より名下余の忠告と名し、使節  
 と名し、歐羅巴より使命と致し、其使節と合衆国を給るも  
 余の率と請う此請求と保護するに必要と延引する為め  
 かならざるべし ○且又若くは名下は於て我々の法及び我々人の正理と保護  
 する為め兵威と用いるに必要なる事件指執るとし、余は右の命と信  
 じて、余が方今の全権として支那海に於て兵費及び命令の



下る前當所へ未着迄は加勢の兵と用ると余の職掌と云ふべし  
合元必政府に注意しし條約の取極と云う此まゝは政府の百に  
る交誼と害をばさることハ何極の事柄と云ふ之と遊歩と云ふ  
ハ大統帥ハ其臣民も同様懇親の意と云ふ待遇せらるべく且其初  
めは後い直に決意する海軍と指向けらるは大君殿下の政府の  
政府於て篤く之をんばべしと信せり○此の如きは日本の面目  
として且大君殿下の政府ハ決意の意を及ぼし之と云ふ習うこ  
ろなきこと正理は後不用意と為しし證と表し実政府

の爲め大切なり○名下の拒みよ由る諸外国ハ其臣民の  
爲め正理と云ふは且外國にニストルの建白も日本の港に決意  
ある海軍と留る間ありあらざる重大の中立と思ふべきは證と均  
し

余又今下に決件と回想せしむ合元必政府ハ貿交及居留所の爲  
め大坂都并兵庫新瀉港と開くと延引さるべき証と未だ兼諾せ  
方今よともは兼諾と云ふ取極し合元必日本との約束は後  
ひ右の都港と今般開きし横となりと條約締各必報せらる

為り十分の正理あり恐惶敬白

日本在留舎危國のミニストルレレデント

ロベルトエツナプライン手記

同十九日譯成テ正直ニ進達ス却説外國ヘノ使

節發發遣ノ決定アリシカバ同廿四日ノ日附ヲ

以テ左ノ書翰ヲ贈達ス 往復書翰書留中日附廿

三日ニ作レドモ子ノ正月外國奉行建議中去ル

十二月廿四日附ヲ以テ彼方本國ヘ御使節被差

出候ニ付云々被仰遣候御書ヘ對シ尚縷々辨論

申越候トアルヲ以テ考フレバ廿四日ノ日附ナ

リシハ論ヲ俟タズ旧記中日附ヲ改正スノ間暇

ナク旧ノ儘ニ存セシナルベシ旧記ト對照シテ

日附ノ違ヘルヲ 審シム事勿レ

亞墨利加合衆國ミニストルレレデント

エキセルレンシー

ロベルトエツナプラインヘ

以書翰申入俄我國內鎖國ニ留置変更スル當ク物論不徳トシ人心免角

ニ折念在國內駭擾切ラシキ事候々其許ニ親シク見聞ハ多ク通カ

人心折念方鎮靜トシテ手履種々心と身とを以テも其功驗と羨スル

事務

夕 稗 者

に至るは其西へ對し、いふも長州於て船船へ發砲せし、事件存するに親  
交際之情義と取外し、一才に至り我政府の處置其正理と以て其可  
存取之懸愧の場へされ此度

大君殿下の特使節外不奉行他田苑後河津伊豆より月日田貫  
之助と選定せられ其節府より召せし是迄不都合と申し候未書牘の  
意味と云々へきよあらざれば親しく其政府に陳告し且我國内人心鎮方之方便  
許す之生靈と害せしむる事國親交際の永久全うらん方略等打明け談判及之  
りる有之故其政府に其許す事委曲は申すに振致し候事限形入歩拜具

謹言 文久三年亥十二月一日

水野和泉守花押  
板倉周防守花押  
井上河内守花押  
有馬遠江守花押

同日在留荷蘭國コンシユルゼ子ラーニル兼ポリ  
チーキアゲントドデガラトフアニホルスプ  
ルークへモ同文ノ書翰ヲ達ス又亞國公使へハ

事務

外務省

左ノ書翰ヲモ副ハタリ

西米利加合衆國ミニストルレシデント

同月五番出願四ノ事ニエキセルレニシト

ロベルトエッチプライム

以書翰申入假善福寺焼失其外之儀ニ月償金高

之儀云々被申裁右ノ期限中有一之事故略若申入

委細之儀夫尚可申入積多取調も既ニ出来翻

譯未ニ成中ニ至らざる内尚再若被申裁右事件

法判古淋不申内使所之儀周旋被法万發之

越被申立懇親之間括右括之儀夫有一之万發筋

然被存假何也子也別裁申入假通厚其政府

被申立假假拜具謹言

文久三年亥十月日

水野和泉寺花押

井上河内寺花押

有馬遠江寺花押

外務省

先是善福寺焼亡ノ後亞公使横濱ニ滞留シ屢府  
下ニ歸留セン事ヲ促セドモ未ダ假旅館ノ設モ  
無ク加之暴激ノ兇徒潛匿出沒ヲ定メズ如何ナ  
ル不測ノ變アラシモ圖リ難ク旁歸住ヲ許サザ  
ルヲ憤懣シ士官ヲ具シテ出府スベシト惘願ス  
然レドモ未ダ其設備モ無ク且暴發無シトモ認  
メ難キヲ以テ左ノ書翰ヲ贈リ出府ヲ止ム  
拜啓  
亞米利加合衆國ミニストルレシデント

外務省

以書翰申入俟其國士官等召連せらるゝ趣此程其  
地出港ノ外國奉行へ申立られ一限兼知せり右方  
外國奉行より申立今都下之素况略申入申し通り  
之次第  
大抵炎上河全ノ兇徒別々戒心を加へ警備も一  
層嚴子ノ兇徒非常之暴發ヲ備へ其程より余等

外務省

外務省

於之憂慮不少苟ら鎮靜之方畧等力に盡す  
といども未だ兎徒刻定之期に至らざるが故都下  
遊歩等いふされゆる未定之紛紜支より激發之  
樞機とあり如何に之變事出來可成も能事否に  
之時宜に及らざる是迄余等が苦心も一時に瓦解  
可及其許に夫と女國之交際懇篤に周旋あり在  
留有之上夫方今我國內之事情も兼知被致此  
方國事之多難なるハ固まり固まり可被致儀其許

立職勢必然之事存准開出府去一時被  
即是合帳被致後此後頼入帳拜具謹言  
文久三年亥十二月廿日其和水野和泉寺花押  
中々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
山並高嶺原々々々々々々々々々々々々々々々々々々  
神助寺村本新道中々々々々有馬遠江寺花押  
如此詭計ヲ設ケ内外多難ノ虚ニ乘シ拘執シテ  
自己ノ存念ヲ立ニトスルハ實ニ憎ムベキ人限

外務省

ナレバ去ル十五日進出ノ長章ニ對シ彼が狡黠  
ヲ責メ疑ヲ氷解サセシムルハ勿論ナレドモ其  
所謂三件ニ涉レル中ニモ殊ニ證據掲焉ナルハ  
小笠原島罪人ノ事件ナレバ今一應岡士ニ面會  
シ島中ニテノ顛末ヨリ最前横濱ニ罪人二人連  
來リ附度キドシタリシ應接其時ハ結局ニ至ルマデ  
順序ヲ次第ニ辨駁ニ及バハ今更反覆ノ曲説ヲ  
立ツベキニ非ズ然ルニ當五月其談判ニ及ビシ

松浪権之丞ハ洋行シ林和一郎ハ長崎奉行支配  
定役ニ轉シ長崎ニ在勤シ今残りナルハ中濱方  
次郎一人ナレ共既ニ其事ヲ小笠原島ニ於テ裁  
判ニ及ヒシ小花作之助歸リ居ルコソ僥倖ナレ  
此二人ヲ横濱ニ遣リ丁寧反覆説シムベシト決  
議シ勘定奉行監察ヘモ商議ノ上申稟書ヲ作り  
淨書成テ奉行各連署シ同廿五日正直ニ進達ス  
閣老ノ異論モ無カリケン即日書取ヲ以テ其事

外務省

許可又其上申ノ書案左人如シ

書面伺之通一取計者  
任後奉兼知  
文正月廿六日  
外國奉行  
杉浦兵庫頭

先般小笠原島へ鯨漁所用ニ月我後國備系郡村松  
濱百姓平野彦隆而持船出雇多江川太郎左衛門  
武松方手附以善徳役格中濱万次郎儀右所用波仰  
舟回島へ相越島民之内鯨捕相心得長外國人六人

雇上ノ近海鯨漁者洲同島へ立戻り前右六人之内  
ウイレルムスミスと申之の系組中込三段一長舟荷  
物取押へ暇不差也其處一先上陸段一翌朝在島  
一五五次チヨリニホーツンと申之の申有荷物取戻方ニ  
短筒へ玉込等致し不相返候所方妨計致者迄  
打取者心組する舟船へお越候處迄移り先前  
右筒取戻し後より相見え其罪狀外お雇ひ長  
外國人共々申口等事分明お成候所召捕小笠

小笠原



系島在島在在在在在の一回中談、正支配同心人  
市小人月片人附添横談表、連來罪科、之次第  
コニシユルハ有三人之者、中談、引渡、其後、古ホ  
非ツシ、申立候趣、も有之、其、三、於連來、其、若、一、再、意  
談判、被、一、度、有、コニシユル、申立、其、百、於、三人、之、者、候  
談表、ハ、美、及、引合、其、後、罪状、之、譯、柄、コニシユル、於、由  
分明、ニ、其、成、其、二、片、支、一、度、立、一、致、其、後、引合、節、有  
之、百、交、有、申、聞、候、二、片、引、取、其、趣、之、處、其、後、古、ホ、一

ツシ、候、罪、科、其、之、片、由、島、美、免、且、子、供、並、高、價、之  
品、物、事、同、島、ニ、美、残、一、候、二、片、右、島、ハ、其、住、為、致、成  
左、也、之、等、之、其、一、償、金、決、九、度、趣、之、書、翰、三、ニ、ス、ト、ル、ヨリ  
美、上、内、返、翰、も、京、前、夫、其、其、其、再、三、於、書、翰  
ヲ、申、上、之、元、初、連、來、リ、其、支、配、向、之、者、今、コニシユル、ハ  
引合、候、候、夫、書、翰、面、ニ、謝、語、仕、子、供、並、高、價、之、荷  
物、等、更、ニ、其、之、次、弟、柄、内、返、翰、ニ、有、夫、彼、是、美、健、也  
其、而、已、之、徹、底、不、仕、其、百、前、其、支、配、向、之、者、候、談

夕 穉 者

表一美之元初コニシユル一川右方趣之押一法判為  
致候方可然奉存方百其者コニシユル一夫外國奉行  
より申之方根可仕此限者伺申候以上  
亥十二月  
竹本 隼人正  
竹本 甲斐守  
竹内 下所守  
菊池 伊豫守  
小笠原 攝津守

田村 肥後守

杉浦 兵庫頭

許可ノ指令左ノ如シ

就右岡士ハノ書翰案ヲ草シ翌廿七日正直ニ進  
達ス其書左ノ如シ

在加奈川 粟米利加合衆國三三三九

小 務 所

外務省

以書簡申入候我小笠原島在住之貴國民ニヨリテ  
請亦以之儀罪科有之ニ付我士官之者同島より連  
束以先般其許へ引渡せし處右之儀ニ付其許へ  
為引合度儀有之候百右士官之者とも不日其他  
請差多し申之存候旨此旨得心益度候謹言

文久三年亥十二月廿七日

竹本隼人正  
竹本甲斐守

菊池伊豫守  
小笠原島根津守

田村肥後守

柴田日向守

同日一覽濟下返サレシカバ同心堀紋次鞍馬ニ  
乗テ神奈川へ携行亞國公使ニ通與ス斯テ作之  
助ヲ始中濱万次郎小人目片原又吉ニ横濱出張  
ヲ命ス候ニ小笠原島ニ在リテ此事件ニ關係セ

外務省

シヲ以テ也同二十八日三士發向横濱ニ至リ同  
二十九日同所岡士館ニ於テ應接ス此時通辨人  
為譯官北村元四郎附属ス期ニ臨ミ公使モ来テ  
此席ニ列リ双方ノ對話ヲ聞ケリ其對話書左ノ  
如シ

挨拶畢テ

此程外國奉行より申入並ニ無人島より連来リ  
チヨージホーツンニ儀ニ月引合ニため江戸表より政府

の命を受け茲越後ニテ  
善知致シ候

完前ニニストルより沛老中方へ善上ノ書翰中ニチ  
ヨージホーツンの罪科中深ク次郎より善免を致其  
照コニシユルよりホーツンへ中波せし趣ふれども素  
より無人島より連来リ引渡候程ニ儀并此方  
おろく免せし儀を更ニ之を何程に次并ふく  
右様申立らるる哉

外務省

宗前万次郎と目録より、系里より士官の姓名  
をいふと申され共我

松原権之丞林和一郎と申すのニ女は一人夫

歐州いより夫のより既ニ今日船へ系込一人

長崎表へ古越居より古代り無人島の事態相

心得居るもの夫人立越居候ニ有之候

此時ニストル其岸に立出

先達より松原林と共日万次郎お越居候ホ

其ツニ儀夫極老ニ候事波島並航海中本ノマ船中

於るも二字本ノマ糾糸有之候儀二月差免し其ハ如何

之方万次郎へ相成り候處右夫人と士官共

万次郎とも差免候可然越申聞及取共ニ

赦免申渡候共右方万次郎於る道に居り不

申す我

此方於る素より免し候譯ニ夫等之引渡せし上

如何候とも可致る其節お召候儀ニ有之其折

外務省

コシユル子も便私次等並國サニフランシスコへ善き  
ハ病院へ入立可申与申聞られトニ云々我  
其所サンフランシスコへ可き疎者處當人西持の  
地面並品物とも多人島へ有之趣然る者同  
島へ帰位段一及者ホーツン現出多段落々サ  
ンフランシスコへき一及澤トス古成兼多儀ニ有  
之故  
其持地之儀千貳百坪余有之及沼田亞人セ

ムスシメスと申之のハ濠洲セトニ云々我其故不  
同人儀蘇澳の多め相雇給料貸越者二片二十五  
ドルラルト多人島より万次郎ハ善店一可申之優  
右地代ホーツンハお拂多者善丈多趣セトムスシメ  
ス申聞者儀も有之殊より万次郎ハ善店多儀善丈  
者右地所を以右トルラル之代リニ心澤吳多格之  
書面もシメスより善出多儀も有之且又ホーツン  
西持の言價の品物多人島ハ善店並多由ニル一也

外務省

船へとる組日中地へお越 舟前ホーッソンの居宅へも  
連越家具等取纏め船へ移入る儀も其前布團  
一團りと衣類等入有る友櫃一ツ持越其餘残し並  
各品を掛時計一ツ日記一冊航海書一冊水巻一  
其外新聞紙有る右をセームスニメスへ渡す儀  
義知段へ友好共其外何を以て高價之品物と被  
申す我且又同島子子供を多く持居る趣おれ  
どもホーッソンの單身子等とて之を如何に釋

子假我

ホーッソンの地處並諸品とも凡價貳千トルラ程之  
趣ホーッソンの申立書儀に有る且子供を儀入冥子  
ニスと云ふといホーッソンの依頼する子供有る事趣は  
然らば右子供をケレと申すの、子供を可有之假  
一刑人を打殺さんといふ玉込等いふ事同之携  
へ来りたるも老人ふれば其罪軽き事ニ我友假  
ミ紙と云ふ儀も存る

夕霧

此時先達ノ波ノ置ノ口書並紙末書亦持上

コシニシユル兼万次郎五ニ讀ニ合セト上ヲ多クテ

万次郎之取計ヲ於クハ聊由不直ニ為得ニ儀

然又其コシニシユル於クも兼白亞國政府不誠申

其後日本入ト亞國人との百ヲ生セト事ト

得々取潤之上更ニ罪ノ次第吟味ト慶並せ

ト事ヲ於ニニストル懸考之上亦老中方ニ申上

ト後次第ニ并コシニシユル万次郎ニ於クハ少トも

不行届ニ儀無ニテト成此上更ニニストルト

亦老中との断決ヲ可任事ト云フニ早川合夫

不致者トも可然義ニ考ル其方政府ハ波申

立者根拠ト波申兼其代書トテ致すハ其方

ホーツン儀我コシニシユル方子ト云フ月二十二トルラ

宛衣食の失費拂並儀ニ有ニテト云フ

袋澤の家并地所とも以前百五十トルラ

ホーツン買並ト慶日中政府の権勢を以テ五

夕霧



十トルニテル子ノ買上られ者趣ニ有之矣

此時シヨト子ホトツン呼寄世系ノ十トルニテル

右家地所々も何年以前右在照子ノ買上り者哉

拾ケ年程以前買上り者儀ニ在座者一トルニテル

其後住居も不致屋根其外悉く大破あつた地所

之儀も耕作等も不致其後拾ケ年打捨之儀

右草木生茂り居る場所々々荒果居る事一トル

五十トルニテル位在る者何之方申談者慶右子ノ

可然者買上り者根ホトツン申出者ニ在り其在

照之以買上り者儀ニ有之矣

ホトツン云  
百トルニテル與へられ者人島へ送りかへされ矣

聊矣存之之矣

此時コンニエルホトツンノ對ひ左根之儀申出者申渡

罪ありと召捕へ當地へ連来り引渡せしもの何之

あつたトルニテル者一トツ儀可有之哉左根之儀

難成儀ニ在り當方々々ハホトツン系ニメスとも何之

同格之罪科とおもふれ有るも三ヶ月  
 に入牢中片々趣ホトツシハ其計も  
 素より不當之由申存候事  
 右友人之罪科大ニお遠有之儀  
 其お遠之由申候事  
 右友人於吟味詰相礼後  
 可成格之儀お見不申其外平生  
 之云い旁在格之悪事日論見  
 存候シメス其罪なきに  
 穿之上再い日本へ渡来難  
 只今万次郎之取計に於てハ聊  
 無之由當之取扱に被申聞  
 右友格之儀有之候  
 悪事お多し多し三ヶ月  
 一ツシ儀五シ等取扱  
 廿日之を打殺候に由り  
 配分可

存候シメス其罪なきに  
 穿之上再い日本へ渡来難  
 只今万次郎之取計に於てハ聊  
 無之由當之取扱に被申聞  
 右友格之儀有之候  
 悪事お多し多し三ヶ月  
 一ツシ儀五シ等取扱  
 廿日之を打殺候に由り  
 配分可

夕 稗 考

致極工みし夫ニメス其罪同し事ニ可有之古々澄  
人等も連越在島人ニ口事等子々聊不分明之儀也  
之ニ度其度並お遠せしハ不仕助之儀と存矣  
右澄生夫在島之とのホーツンを退出さんう為め  
之レ秘之事申出之儀と存矣  
右方在島之との相巧とある申出之儀ニ之と云々  
ホーツンニ若シメス凶悪之次第相頭を召捕之  
日本地へ連越ししコニシユル之裁断ニ可任之存

寄有之者若申出ル根島民一同へ中淡し之度  
右之要事子々夫其場ニある殺之由り之儀島  
民申聞之其外國之貫籍ニ属するとのを召捕  
りも古成者上之殺し之儀ニ及ぶ中諭之度  
銘々着りおよい之次第在島のとの申出之儀を  
認させ之儀ニ有之右之信用不致之儀何を以  
澄據とホー正當之取計を為し多里といひし  
一万余計若士官之者ホ疑ハ惟ホーツンニ申候と

夕 稗 考

外務省

信用波致を儀と相聞之候  
野左様之儀ニ事ニ万次郎之取計ニ素より正  
當なる候以在島之若の證書并口書其信用  
紛ふかかく候  
左様之儀ニ事ニ右證書并口書等たしふ澤  
左右を相押へ先達其儀一も申談川渡し  
儀なる其儀も義知上ホーツン英シメスとも  
取在儀ニ存然る子右を慥ふらる様ニ于今

請ふり被申聞候以万次郎おのつらり不取計  
之儀ニ成初候儀ニ事  
然る万次郎不取扱之節ニ事ニ是迄之裁判  
之儀ニ事ニ万次郎の間ニ事ニ事足り候儀  
候ニ事ニ事ニ上ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事  
之儀ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事  
之儀ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事

然らハ前件之次第委細申立其上ナリ於政府  
之儀ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事  
之儀ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事ニ事

外務省

外務省

後報  
其詳如致し  
右早る連散  
此日ノ應接對話ノ如シ未々十二分到底スルニ  
アラ子ト後日ヲ約シテ一同歸府ニ奉行日向守

柴田剛中ニ顛末ヲ復命ス  
翌正月二日對話書ヲ進出ス 先是去  
ル十五日亞國公使ヨリ進出スル所ノ再度ノ復  
翰種々ノ辞柄ヲ構へ已ガ意ノ如ク數件ノ償却

ヲ貪ラントノ胸算ヨリ事ヲ左右ニ假託ケ一向  
ニ本國政府ノ下知ナリト募リ期限ヲ定メ兼諾  
ノ回報ヲ督促ニ及ヘル其原因ハ假館ノ焼失ヲ  
怪火ナリト狐疑シ横濱商工ノ者等ガ負債ノ催  
促ヲ暴戾ナリト難ズレドモ彼ヨリモ短銃ヲ差  
向ケテ無法ノ應對ニ及ビシハ神奈川奉行ノ糺  
明書ニ判然也加之小笠原島罪民ノ事件罪状明  
亮ナルヲホーツニ欺レ不所謂請求ヲ為スノ

小笠原

外務省

數件今過ニ彼ガ曲説ヲ辨駁シ正理ヲ明確セザ  
レバ必後日ノ害ヲ引出スベシト一通ノ上陳  
作文ス  
亞國公使一可被差違所返翰ニ儀申上帳書  
亞國公使より西手前狀方宛書翰一封差出帳  
披封翻譯為任一覽仕儀慶先般古公使より長文  
書翰を以善福書燒失其外神奈川表事件並小

登原島罪民之儀二月本國政府の申付越後縣を以  
償金之儀申立候所儀いづれも不法之儀申付聞  
届可成候儀ニ及ばず一願申書翰を以申付  
解被成候儀慶尚又不差允之旨申立候儀為右  
三件二月日此程申返翰之趣十分之内理柄  
有之候旨別為被仰合ニ申及申付發尤申使節  
差拒第一存在以軍艦呼寄せ中又夫西港開  
市之儀等申立候夫以國之旨申據申事情ハ並打

外務省

外務省

明々内说偷由有之矣事在彼も懸知可なり在  
處却而餘派ニ相涉リ及側可指儀ニ夫々均大使臣  
館焼失後内措置振不済是之虞も有之憤激之  
餘り善向内困難之儀を故らニ申並へ夫儀を其見  
及治不法之儀去一ニ内後偷被成可然尤右振  
葛藤を生し去上夫此後如何振申募夫我由難  
計其程度ニ内書翰を以被作是之矣而已去夫徒  
ら子紙上之往復を重々迫るに倍是之儀

實摸通り兼諸事固圓之見振も是之矣内子前  
扱方之内彼地へ内出港被成前内返報之内主言  
を以萬々内说偷被成内古當之儀を奉存其始元  
當之節内所於合之儀ニ夫々若年寄之内彼善  
是内主言内打返一被仰入其ハ、彼方疑念も永  
解仕内面倒相首可申式ニ奉存候依之別紙内  
返報案取内辨駁可成之儀ニ巨細取内別紙  
相添形内申上候以上

外務省

夕  
稗  
者

明治十二年十二月 竹本阜人 心

竹本甲斐守

菊池伊豫守

小笠原根津守

田村肥後守

池田筑後守

河津伊豆守

柴田日向守

亞細亞公使不可差遣の通商案

亞墨利加合衆國ニスルニテ

エキセルニシ

只ルトエツテ

英皇第百二十六号之書翰

十月附書翰を以て回答

尚又英皇第一号之書翰

を領事せり我國領土之

事務



夕  
務  
書

るまゝに不意致し難く不意存之事とも不意余等  
毎に憂慮あるを以て所被申越る、件にも早意人  
心不折合之を以て常子見聞致し居らるより  
疑之を以て引起されし事と察しぬれども善福寺外  
支件とも前田に辨駁おしい通り之情実ニ相違  
なき尤古辨駁之云々只管交誼ニ障り信愛之  
道を破る根申聞らるれども此方於て敢る其  
許之需を拒む之意はあらば互に思ふ所同一

ありざるより疑塊氷解せざる事毎に有之前回  
之陳述ハ則其許之疑之を解き去る為め高淺  
を尽さんと欲する趣意緊要ありハ彼等と隔  
意なく復論有之今取善達を使節待遇方本  
都々港開市延期兼議之儀も厚く善會る根  
本入者殊に軍艦不善向内を其許等申立之趣重  
大之事件とて不心洋杯被申立とも先般長州沖  
於て英國高船ニ對し打砲せし一事に於て其

夕  
務  
書

外務省

許求之願、小々儀、有之事、之大小理、之曲直、之  
兵威、之勅、之ハキ、子あり、之る、匪、之、思、有、之、成  
鬼、之、角、事、情、透、徹、不、致、有、之、自、然、交、際、上、子、差  
害、之、多、根、之、場、合、子、至、り、可、申、武、心、痛、致、一、ハ、二、月  
余、等、面、晤、之、上、委、曲、之、尽、一、成、有、之、以、不、執、事、多、事  
之、形、柄、有、其、役、心、之、者、一、様、之、備、之、子、申、合、め、其  
地、子、就、之、決、判、可、為、及、百、其、旨、被、心、得、成、回、答  
如、斯、假、拜、具、謹、言、

文久三年癸丑二月晦日、水野和泉、花押

板倉周防、花押

井上河内、花押

此、晦、日、ノ、日、附、ハ、末、ニ、云、フ、正、月、四、日、施、行、ノ、指、令  
ア、リ、テ、後、書、加、ヘ、シ、モ、ノ、ナ、リ、其、ハ、次、ニ、云、フ、正、月  
四、日、ノ、條、ニ、  
詳、カ、ナ、リ、

第二件、由、辨、駁、之、儀、

第一件

一大君、殿、下、之、不、在、中、之、江、戶、を、退、去、之、ハ、一、ハ、

外務省

一 大抵俄對活書等事之類三月村垣漢路官問合及此

第一本文之通り活判致し其ニ相違なき旨申聞矣

第二件 活判致し其ニ相違なき旨申聞矣

一 横濱子之別宅を構ゆるを以て余ウ入費大ニ増ス

其之ガ為子生る活雜費大ニ日本政府子之計

ふべしと述いハリ

此儀誰對活之節申立有儀ニ其或對活記簿

取用有處在取之況活仕者若之等之全誣枉也

況ニ出有儀ニ奉存儀ニ其或對活記簿

第三件

一 第四月云々以下善福寺焼失之儀夫怪火之旨云々

申立有儀

此儀對活書等事之類三月村垣漢路官問合及此

表へ退去之儀種々活判致し其以有旨何令不兼

引ニ有之候彼方用向子之先二週日程横濱へ

可及越之儀申立有儀其違有旨且ニ二三

此館場而習之儀集人正申斐寺より申入多趣  
 星又相違日多之尤公使住居遠隔之處一火也  
 附之儀之恭敬懇篤之次第二有之故申立  
 之儀之何等之趣意ニ其我全疑心より相生  
 癡情ニ相見一其節失火之根根申辨明不波  
 一 成之との趣ニ下文申上之通り其同時詰合并  
 第三小並申相礼儀作之趣も有之且當四月十三日  
 提津寺公使へ對話ニ仰公使より此度出火之

儀之疑之趣ニ申上之儀不慮之手過方より  
 起り之儀ニ別院怪火蹤跡畢ニ之申聞之  
 右出火之儀ニ自國政府於之心得違有之  
 不慮之儀不慮之過方より起り之儀ニ信  
 枯致度且其節詰合役人真實ニ働之事も申  
 並並假名申聞尤詰合之若し礼申成之由ニ  
 支之申口も可有之自國政府へ差送り申渡之  
 三月書面ニ由之被下波限申立之三月詰合之

若吏に取札を始末書寫を隔てて書翰當六月九日の達を成申候前條政府より西洋達有之候るに不届者申立候趣も有之候上候同人候取不届者も成程政府へ申立候候念氷釋致し候取計可申立其減掌為申立候申立候にれも不相當之候に奉存候且申立之内其朝九時頃普兵居所之外於て一室を配せざるの候に真福寺假住居に候に可

有之候に候候未翌日當四月七日朝公使見分候上法合支配向より吏に為取計候候且同人馬に鞍を置出立に用意候候候世に候候其節法合に支配向相札を慶忌又評矯に妄説候一候平生に公使出候仕候節に彼方より其候支配向に者へ申出候より支配向に者より附屬に候等其節に為申候候候相候候候候勿論此方馬に度等取扱候候曾候

善之假新... 善福寺焼失之節...

善福寺焼失之節... 許諾令其支配向西村鉄三郎...

其相礼之處... 申聞候事...

第四件... 一、本集人心...

一、本集人心... 再建之取掛...

了之若再建... 再ハ焼失せ人之恐あり...

依之金を寺僧... 氣障あり建之む...

然る時... 誰人も其喜... 知り以て或は考へ得...

さるや... 此儀對話記...

此儀對話記... 尤寺坊ハ...

對治之眼目... 寺坊ハ...

之内集人心... 古語...

居て奉存... 尤當四月中...

甚く候... 西應寺...

所を相借仕... 度方申立...

寺ハ一昨年... 焼失其後...

外務省

不取締之也其見其百以貸渡方之儀大冊所揚  
所手數も不容易多百何也之善福寺焼失跡  
並次善法為取掛如元同所也貸渡古渡也  
西國之者陸所亦有形也者之西都左可然左  
得之當時公使立退所真福寺之甚手極之場  
所之建立等為仕之地也無之其終元止宿  
所急進善法落成及い多事之其趣也  
及應接善法中神在川表一為川取多根子也

漢判相纏中及右中修定之其夫公邊善法之名  
目之及場而初不都合二月寺社奉行入内沙所相  
成所手多金内下之可被成修百善福寺也  
早之元形之通自善法取計多根可也渡与彼他  
渡方方可然右被作渡也深者上之尚支配向不  
巨細之手數等之善福寺之川金為及作奉向  
手苦如何根之也採取多根可為申漢元同寺漢  
判之模根ニより善法入用金之是合世善向也

外務省

手當金波方等之儀也尚申上多報可任就而夫  
亞國公使一以返簡案之儀也而不知此才取調  
可申上自當四月中申上並多報也有一尚又  
同月十八日伊豫守於後院表對給之砌因人  
事善福寺燒失後以淡一之次才有一時  
之權軍也以後院停當之在也其在本國政府  
魚子江戶表一之在也其申上多報也有一尤  
佛蘭公使報宿之內借受也之也出府侍及臣

申立之節若也其條約面二基申出之儀且入  
費其外不於合之次才有一之儀也被存事情  
余儀相聞也而所聞屆可也成之勿漏之考得大  
此節物所府内逗留之儀也品之也懸念也其  
同人任宅其外等神奈川奉行於之萬之世語  
被一失費不也其報取計波也一可申上神  
奈川奉行一被作儀尤各公使共江戶表二可  
其在也其條約面通り之儀也當時空館也成



外務省

居方共英佛等使、宿寺由所産多處亞國、  
限り燒失後其修古成居候も夫自然其國面  
目ニ相拘り考振之場合も可有之哉難計多旨  
善福寺之儀又兼申上矣通建方古成候夫  
全々江戸表を驅逐被致候所方趣ニ之等之世方  
等由據此事候由氷解可及矣旨治る由府之  
儀由申出百表我旁右建物之儀夫早之由下知  
由産多候此所候當六月八日申上並其後當九

月七日於橋原表同公使へ攝津寺對話之砌公  
使より橋原表へ罷越候儀二月五日二月中竹  
本甲斐守善福寺へ表越頼有之矣慶公使儀又  
都下住居當然之儀二月善福寺境内より仮住居  
之由宜表多旨由府致し度旨申立矣二月當  
節人心不於合之折柄都下住居之儀甚之懸  
念二月政府於之殊更心配夫之儀並致し居  
方取退之平穩ニ至り矣夫住居之儀可申越且

外務省

外務省

善福寺善法二も多前取掛り其手續二成り百  
造管出来之上帰存段一考方都合可然其百  
暫時勘弁段一考根程能祝禱相加ハニ並其  
趣も有ニ多均共一科公使儀都下住居罷在共  
儀之勿論子ノ宿寺焼失之程去々余儀ハ助ニ共  
澤共其儀所羨並被成共百夫所條約ハ違背ニ  
筋ニ在當リ同人於之也自國政府ハ對一面目  
子也拘リ其儀も可有之儀慶只今以之同寺

造管之運其も成不申因循時月ニ経久より  
焼失之幸都下之由擴弁被成考根心得違致  
一以益疑念之相醸一怪火等ニ可有之杯之根  
之臆死相唱ハ其儀ニ可有之考百同寺儀之早ニ  
造管相成是近ニ通都下住居罷在考根相成  
考方支是疑心由相消假より所決判向所疑念  
之一端ニ奉存考二月前条申上考通早ニ由下  
金被成也同寺子ノ自善法取掛り考根寺社

外務省

奉行ハ以沙法ヲ成リ然儀ヲ奉存候ニ付申上

亥四月九日差出候五十八号之書翰有之候

亞公使ハ止宿所内貸渡之儀ニ付申上候書面

四月十日河内古及ハ進達仕候

亥四月十八日於横濱小笠原根津寺梁田貞吉所

亞公使ハ之對話書有之候

亞公使出府之儀ニ付申上候書附六月八日

河内古及ハ進達仕候

亥九月十日於横濱小笠原根津寺亞國公使

對話書有之候

第五件

一其後政府より其火難を免し之所を居留所とし

之急ニ補理せしむべしと兼諾されしとの儀申立候事

一此儀四月十三日根津寺公使ハ對話之砌止宿所焼

失二付五尺右普濟堂成込焼残り候本堂間仕

切致し可貸渡者申談候之處兼諾之者有候

夕霧

又儀有之古等之儀を申立奉存候事

第六件

一第五月三十一日午後二時以外国奉行松平石見守

来りて云へる事ハ我来るも危き事不れども政府

之命下り下件を報告せんとすめり来れりとの

儀申立奉事

此儀密語ニ片對活記等々之有旨石見守兼り

合者慶長以共都下にお集居候風守も有之候

お拘都下仕居之儀又懸念之者一通り申立奉

趣ニ有之尤重簡文匠中浪人大約五百人程

集りたるとの儀又政府下り恐るゝとの儀又懸

念を申立且政府於之を討置事難うとす

又浪人之朋友之内との儀又不中入使臣館之人

子對し仇讐との二字ハ乱妨を申立奉趣同

人申聞候

公使出府之儀二月石見守書翰を以申立且私

夕霧

其ノ對治之砌再三申出九月七日、候候於、候  
津子、申立、申趣、以同月十日、由書翰、以候  
候表、一暫時、津子、候、被、作、申、趣、由、有  
之、候、入、添、精、毅、之、抱、考、より、種、之、始、足、を、出、流  
申立、候、候、為、末、候、其、後、數、日、小、一、二、云、以下、左  
新、徴、組、の、召、抱、之、候、を、側、聞、任、申、立、候、候、と、相  
見、考、以、共、古、候、彼、方、兼、込、考、通、り、浪、人、共、考、等  
米、之、運、徒、に、對、し、申、出、養、い、古、候、考、候、之、云、等、之

右之内、全、有、志、之、若、否、已、丈、之、所、揣、撰、考、候、候、候  
其、候、其、候、西、辨、駁、考、成、可、然、候、之、奉、存、候、尤、右  
一、大、二、月、同、人、より、異、存、を、述、考、前、返、答、仕、考、之、候  
夫、於、事、柄、考、違、之、考、以、下、誰、對、治、之、砌、之、候、哉  
書、類、等、之、考、百、考、分、り、兼、申、候

第七件

一、合、衆、國、之、大、統、領、之、其、事、件、を、第、知、り、多、子、後、云、  
世、候、善、福、寺、焼、失、之、怪、火、之、よ、り、等、種、之、誣、編

之安洗公使より申せし事故大統領於て之を嫌

一合疑を生じし事奉存考百此被而使とす

第十被善多事以後寸伊豆寺より百事并解散し

之合疑念氷解散し可申奉存考

第八件

一大君殿下政府余江江を退去あるを勸め多休

西渭の事難を保しし心より儀申立考事

此儀考九月十四日於西軍艦操練所亞蘭太公

英公使、鎖港の儀被保入考辭申立考趣有る

考一昔古々全く激変を而心配被為在考西趣

意より之儀を敢る而養成被成考筋考

之人心取鎮方考而據而事情に被為在考考

辨駁被成考考奉存考

第九件

一又余台下子次件を回想せし事云々

刑儀居留館焼失二年を以て再建を儀精々勉

海防ノ當節目論見中不れども善向及ニ住居  
 一又致寸盈寸丈之場所ヲ取繕出來致し及者當  
 第七月十八日西書翰を以て達す成居候へ共未  
 所取建ニも不古成其後一度ノ出府ニ候申立及  
 八ノ共西懸念之場所不少候ニ并共引合之節  
 一善止候ニ并嫌罷を以抄地古成及罷存取  
 一本文之如ク申立及候ニ奉存候ニ並及  
 第拾件 外務省 西書翰 不古成 申立及 候ニ 奉存 候ニ 並及

一燒失二月一ノ那償金申立及事  
 此儀當四月十八日根津守公使へ對話ニ砌公  
 使より此度善福寺燒失ニ并及多分ニ損失  
 未成申及辭言へば自國へ西國使節以成之節  
 所旅館燒失等々ノ損失掛り及前及自國  
 政府ニ并償及儀ニ并及之共西懸親之ニ原  
 由以補及儀ニ有之然る及右金ニ并政府及由  
 償被下及るも直ニ頂裁仕及訳ニ并及成不申

下先自國政府へ申上り政府に思召之程  
難有存多し共頂裁可仕以助之云々損失之  
言及自國に相償い自國政府へ返納仕去儀  
有之候申聞矣二月提津寺申談矣其形程  
淡路寺其許へ談判之節提淡表へお越矣  
入用並燒失成候二月有之入費もお掛り可申  
多百不取敢五千幕川智也一可申上申入矣右  
一其許波申聞矣懇親之儀を以補之事二

有之候限お答矣趣も有之申之儀金之儀  
政府より申上り越之の儀去古對話之旨に  
矛盾仕矣

亥四月十三日小笠原提津寺亞公使と對  
話查有之矣

第十一件

一 小笠原島罪人ホーツン儀ニ存云々申立之事  
刑儀ホーツン外去人を召連歸府仕矣支配向



外務省

之者其江川太郎在港の所録宛方多附出普請役格  
一、中溪万次郎相礼候處去成十二月越後國蒲原  
郡村松溪百姓平野廉蔵而持船以勘定所  
以雇古成方一番九中溪万次郎鯨獵所用被  
作年當亥年正月九日小笠原島へ入港同島高  
外國人等相雇立島罷立方支配同心杉浪権  
之丞西小入目月林和一郎と係組同三月中同  
港出帆同四月廿一日夕鯨獵其海程又同島へ

立戻り港外見島之灣へ碇泊致し冬節古豪  
組より外國人六人元一十先父島籍にて居宅一端  
船より取廻り冬節ウイルムスミスと申者一人夫  
多謝荷物等取出し殊に雇中給料之貸通  
二も其成働方も甚不宜方二月暇不善迄以前  
夫荷物難出波次身申一談候處同日夫上陸  
致し古スミス同居罷立方三ヨリ三ホトツニ申  
合翌朝短筒へ玉込等致し其心お堆りへ中船へ

外務省

外務省

罷越等後方所古筒を張る取方一同船  
お越方者之内ニヨニウイレム見張方後玉之  
有之候ニ片並ニ水ノ混ノ其腔中深下水即ニ  
所へ出方百早速吟味古礼方處荷お清九  
お越若お妨多者有之候一夫打殺方核ニ  
右筒於系致一夫越ニお違ニ候ニ片並根百捕  
即日扁浦出役所之方へ連来候ニ片明家へ押  
込並食事等々多致一也一也島民一同呼

集め前件之次方捕得申渡方處同島居留  
之英人ベンシヤウイレム不申立方ニ夫右ホーツン  
候スミス之取ニより荷お取戻方ニ罷越若一妨  
る者あらハ短筒子等打沈可申核ニ越申聞其  
外ニ者もホーツン並スミス荷お取戻方前不返  
候方打倒一可申杯ニ咄着り多限申出其餘  
ホーツン儀前ニ不辨之兩業等も有之事杯申  
聞方者も有之候一共右方暫く美並此度之

外務省

外務省

事件ニ關係致シテ申口而已口蓋テ取リ並右  
ホーツシ後四月廿九日平野船ニテ組世多前大  
村ニ居宅へも召連越同人ノ申子任セ為相等  
悉ク取纏め船中へ持込同人持地等ニ後にも  
セムススミスと申者へ相對テテ讓上渡申去  
成正月中水弁下從古より持地相免ト多前  
澄撥子渡ト並テ餘國も不ミスへテ讓リ其  
他同人所持之荷相等も無定ニテ五月朔日

小笠原島嶼帆内月十一日候候表へ連渡リ多前  
前件ニ次牙相初共へ申立者ニ月中候万次所  
並同心松浪權ニ丞内小人目舟林和一所より  
コンシユルへ為申談者處眾人等々申口ともお達  
無ニ趣ニテ法取多百川渡所ニテ歸府仕を處  
同月廿二日ホーツシより申出者次牙も有ニ候  
間於一熟小笠原島より連來リ者士官ニ川合  
渡者コンシユル申立者ニ月三人ニ者候候表へ

小笠原

其越尚宮方之通り申談及處、古紙罪状亦連  
由是之上、支之罪科ニ處、並可致、ホーツ  
儀及歸島被一、後者願出、共其儀も難相  
成筋、二月、亞國、サンフランシスコへ送、可申、返二  
申聞、及、百、程、差、り、後、儀、も、有、之、及、ハ、相、尋、及、根  
申談、及、處、及、子、形、後、門、合、及、儀、も、有、之、百、及、及、  
コ、シ、ル、申聞、及、二月、歸、府、任、及、院、申立、及、及、子  
有、之、然、了、和、考、七月、九日、公使、より、ホーツ、儀、及

多罪之者、二月、歸島、為、被、院、書、簡、を、以、申立  
及、百、罪、状、之、次、才、並、島、民、折、合、不、宜、及、百、歸、島  
取計、兼、及、院、八月、七日、返、簡、被、及、及、之、處、同、月  
十七日、右、ホーツ、所、持、之、品、物、并、子、供、等、同、島、子  
有、之、及、二月、歸、島、為、被、院、及、若、一、其、儀、亦、成、兼  
及、之、物品、之、償、金、及、及、亦、尚、又、壹、簡、を、以  
申立、及、二月、有、罪、之、者、を、召、捕、及、及、正、當、之、措  
置、之、百、其、際、ニ、亦、生、及、及、換、失、を、亦、候、可、成、亦



謂之且因人儀之單身なる見孫等之趣  
 士官之者申聞之趣西返簡案取潤十月十三日  
 美上並之儀ニ有之一、作ホーツン儀西國法を以  
 申之へ之相當之罪科ニも可被處者ニ有之儀  
 一、亞國貫籍ニ屬し之若之儀右條約西通  
 コシユルへ川渡し彼方之處置ニ被任之儀三月  
 歸島之儀之汚る由善拒可成由辭柄も無  
 之儀一、ホーツン儀罪科有之儀之顯然之

事ニる既ニ中淡石次郎始支配向ニ若方より  
 同人をコシユルへ川渡し之罪状も述も之  
 上之支之罪科子處之へキ方コシユルより申  
 聞之儀も有之且未書中同人所持之物品等  
 小笠原島ニ有之者申立之儀一、共右之同人召連  
 越之罪盡くコシユルへ川渡し之儀子之申立  
 之趣ホーツン儀コシユルへ對し種之虚偽  
 之を構へ之より嫌疑を生し品之申立之儀ニ

外務省

可有之々奉存多ホイツン召連内府仕々支配  
向之者共去十二月中コンシユルへ為引合々處彼  
方おろも粗疑念氷解致一俵

此書中去十二月中コンシユルへ為引合云々  
ト見エシハ十二月中ノ草案ニハ去十二  
月中ノ文些矛盾ニ似タレドモ是ハ亥年十  
二月廿八日小花作之助以下一同横濱出張  
翌廿九日コンシユルへ面接談判同晦日歸  
府其節ノ對話書ハ正月二日外國局ノ田シ  
ニ進出ス初此草案去十二月中ノ五字ナカ  
リシヲ正月進出ト決定ノ後書加へシニヤ  
文久三年亞國往翰書翰留中草案ニ書アリ  
其一ハ前ニ掲載スル所ノ書ニテ事實精細

且去十二月中ノ五文字アリ又一ハ顛末大  
同小異文章粗畧且去十二月中ノ五文字ナ  
シ恐ラクハ前ニ記載スル書ノ原稿ナルベ  
シ其ハ兎マレ角マレ前ノ書中去十二月中  
ノ文錯乱ナラヌヨシヲ漸リテ後日ノ不審  
ナカラシメントス尚前後ヲ對照シテ其誤  
ナラヌヲ  
知ルベシ

先是外國奉行ノ申稟ニ因テ横濱騷動中土地ノ  
工高等亞國高民等へ負債催促ノ顛末ヲ糾明シ  
詳細上申スベキ旨ヲ神奈川奉行ニ達ス奉行其  
旨ニ隨ヒ左ノ書ヲ進出ス

外務省

一 亞國公使より差出候書翰和解並外國奉行申  
 上候書面共此下被成一覽仕神奈川表へ関係致  
 上候候より内子一奉行運上所へ出張制限之儀  
 共揚載多共其節淺野伊賀守一人役高公事  
 吟味相等有之節朝之内級所迄之調也我  
 午後二至り運上所へ出候致し其事由有之儀  
 一 共平常牙十時以迄之儀必出候致し居候事  
 二 一 橋渡代一時新搦之取鎖方之儀之被方之儀

其情実を不解只誹謗之言高古夫別院申上候  
 近も之之儀ニ此座候  
 一 亞國商人ロハルトソン并スチルニスへ引合度始末其  
 余スコールと申立候人名夫居留商人之内兼及不  
 申同國商人シヨヤと申者ニ可有之候旨引合之儀  
 等取潤之趣左ニ申上候  
 一 亞國商人ロハルトソン方へ洋金手差之催促子及い  
 其上不法子擔出し及打擲袂時計衣服ニ附候

銀相並洋銀等盜取多同國同士申立夫一件  
其紀多處核深中町五町目親八郎代直助儀去成  
年八月中荻苓昆布去波一古價之内洋銀  
貳百枚清元其後殘銀之催促致一多處芋  
籾齎賣波去以前並品之價一同可お掛与申  
聞俚二月任其意支之取揃持込多處内洋銀百  
枚清元其後致波之催促与當亥正月中洋  
銀百枚清元致之洋銀四百貳拾貳枚五卜余金洋二

お成數度催促致一夫一共取敢不申然几外當  
三月中市中初揺之形物其万荷王共ふ去屬催  
促清古之次牙お拂方難出来終二荷王共直  
助方へ立越手詰之及催促致二月与據荷主元  
支人召連同月十九日口へルトソニ方へ罷越洋金  
是非清元致与申述多處同人立腹致一不法  
之處並其上足就二致一夫二月不淨止其足を  
取り突倒多處起上り寐甚二有之夫小筒を



取可申付二月荷主俱之在ニ擔出テ表通り去  
外國商館軒並友裏道より太田町へ出運上落  
召連訴可致心組ニ高ヲトルメン住居後近  
罷越其度口へルトソニ候大勢お察者へ去程  
ヲトルメン罷出立入何事ニモ同人へお任せ矣  
各指申す候旨候其意引致候之旨申立  
去二月其節及打擲袂時計金和洋銀盜取  
候儀ニ可有之旨再懸相札候之旨共在候儀去

曾る候之儀有る全ク被申掛候儀ニお達之  
刑上殘金拂方之利害有之為限申立其節淺野  
伴賀守勤役中ニ候之旨即日岡士へ對話及い  
いつ之にも洋金お掛候ハ、並助儀去國律子  
依之申付ニ相討可申口へルトソニ及不法候  
廉去岡士於之申付ニ可お討候旨及引合其後  
四月十九日岡國公使並岡士へ對話之節申様  
法判致し誅し足蹴ニ去不發服申様直助之罰

小方等彼等申聞公使之見込通り罰金一萬圓不  
成多矣本國政府へ申進し政府より掛合二可  
致杯申幕多一共同人之申聞を以刑典を以華  
其儀夫難成儀之旨精之及後論多儀二有之  
其後岡士の書翰差出多二月之九日申談多趣  
意を以往復ありて多近二日否換授多之儀二  
内務省

一同國商人ス千ルニス宅へ洋金多及催促其上

打擲致一多鉄砲打碎多同國岡士申立ルニ月  
相礼一多慶石川村多方職佐吉儀ス千ルニス住居  
後地平均之儀洋銀百五拾枚多引渡内洋銀四  
拾枚渡取給定通り出来多残洋銀百拾枚  
相掛吳多根多及催促多一其彼等申延取敢  
不申然之儀多三月中市中初儀之形柄入氣立  
下職之者多屢作料之催促受多據同月十八日  
下職一同召連ス千ルニス方へ罷越催促あり

外務省

各處立腹致一一同可退拂之務施善向什租  
以資二月三余儀其同之期取打碎時取合  
ふい資形柄スナニス召任并一厥別當筆立入何  
身ニ也為古拂資留鎮ノ多松申聞夫二月任其  
意一同引拂資儀之者申立即日該所伊質才不  
引合亦ふい於翌十九日岡士罷出打碎資儀殊砲  
之價ハ可善出者申募資一未右天國法ハふい  
一切債可善出彌是是之匠說破ハハ洋銀百

拾枚古拂資ハ結古天國法ハ以取並可致者申  
該資慶善伏致一一同廿日洋金為古拂資租可致  
与岡士申聞其後洋金不古拂資二月同四月廿七日  
岡士ハ對治之砌程亦申談資慶善洋金為古拂資  
積先以申立並資儀之處殊砲被打碎資留雜  
古拂資等申聞夫ハ古強ノ事ニ古強多根周  
旋可致与岡士申聞引取其後何等申出資儀無  
此二層假

外務省

一 同國商人ニヨヤ宅ハ多人數ヲ越シ洋金手紙之及  
催促一分銀三百自終ニ持去ク趣同國岡士申  
立書一件由札付慶太町所一丁目大工辰五郎儀  
ニヨヤ宅普請去戌九月中ノ家作一式入子百貨  
銀日下々之對談ヨリ約定書筆次不取並諸職人  
入並去慶退ノ賃銀相當者言三月中迄ニ金百  
三拾七五式分札由序下職之者ハ拂方不行而  
然ル如原五郎儀春以來病氣ニヨリ三月中ハ別  
不勝催促ニ罷越ス儀難出來能儀罷在矣於  
物先般之動搖ニ由リ市中人氣立諸職人一同今夫  
日ノ手紙強ク催促之者多感ニ餘リ同月十五日  
諸職人相揃シヨヤ宅ハ罷越申談去慶退ニ内  
金七十五支渡吳次儀ヨリ於殘金六十式五分  
支退ニ可及催促ニ存罷在矣儀之者申立矣共  
前書シヨヤ宅ハ多人數ヲ越シ手紙之及催促自  
終ニ金子持去ク儀ニ可有之者再原古札付共

外務省

不勝催促ニ罷越ス儀難出來能儀罷在矣於  
物先般之動搖ニ由リ市中人氣立諸職人一同今夫  
日ノ手紙強ク催促之者多感ニ餘リ同月十五日  
諸職人相揃シヨヤ宅ハ罷越申談去慶退ニ内  
金七十五支渡吳次儀ヨリ於殘金六十式五分  
支退ニ可及催促ニ存罷在矣儀之者申立矣共  
前書シヨヤ宅ハ多人數ヲ越シ手紙之及催促自  
終ニ金子持去ク儀ニ可有之者再原古札付共

外務省

右指之儀不省る之尤多人故書越之  
其式速之内金古波吳之儀及活儀等  
一切之儀多人数越之儀及越之儀  
申立其旨其限一紙支配向より岡士へ申立  
儀二有之其後何等申立儀否以座儀  
右之通二百一十也其後彼方へ何  
申立儀否  
夫之儀置可致儀二有之其後何等申立儀否  
書翰差上之儀二年前差之趣也  
以所返翰被仰

外務省

此等細之儀不私若一法判可及否  
可然我ニ奉存之且以下ケ有之  
書翰中罪あり  
考之水門を作り水乾  
其仕事之棟梁ニ申  
其儀相見へ之  
其列限右指之儀申  
儀之儀係之  
以下ケ之書類返上此限申上儀

以上  
大久保紀伊守  
十二月

堀 伊賀守

外務省

駒井大守

右神奈川奉行ノ上申ニテ横濱ノ事件モ其事實  
愈々相違校點ヲ以テ虚偽ヲ構ヘ彼ガ非ハ是也  
トシ此ノ是ハ非ナリト証シテ明亮ナレバ彼ガ  
書翰ニ所謂無キ償贖ヲ貪リ取ニト難論スル所  
ノ傲倨ヲ一言下ニ説破シ黑白判然ナラシムベ  
シト大約内議決シタリシガ同晦日万次郎作之  
取又吉等ガ横濱ヨリ歸府ノ後同日亞國公使本

國政府ノ命ナリト稱シ馬關償金督促ノ書翰

此書

翰和解全文後  
條ニ掲載ス  
ヲ閣老ニ贈進ス然ラデダニ前ニ

云フ善福寺ノ焼亡ヲ怪火ナリト狐疑シ種々ノ

難論ヲ吐キ且横濱工高等ガ亞國人三名ニ負債

ノ催促急ナルヲ辞柄トシテ故障ノ説ヲ主張シ

加フルニ小笠原島罪人ホーツンガ詐偽ノ歎訴

ヲ信ジ有罪ヲ無罪也ト宥免スル而已ナラズ三

件僉償金ヲ債ルサヘアルニ長州ノ事件ヲ差擧

小島

ニ難事一時輻湊返答頗ル困却ス抑善福寺以下  
ノ事件ハ固ヨリ彼ニ十分ノ非アレバ辨論説破  
難キニアラ子<sub>ニ</sub>長州ノ一件ニ至テハ彼ニ十二  
分ノ理アルヲ主張シ交親ノ違約ヲ難シ償贖ヲ  
強子ニ請求ス是ハ辨駁スルニ説キ示スベキ的  
論ナシ因テ成否得失ヲ推考フレハ今此方ノ理  
アルヲ募リ彼ガ非ヲ責メ壓倒セバ彼又彼方ノ  
理アルヲ募リ彌暴激ノ難論ヲ以テ政府ニ逼リ

夕  
程  
者

長州ノ償贖ヲ償ルハ必然是所謂前門ノ兇狼ヲ  
防タノミヲ知テ後門ニ猛虎ノ暴来<sub>レキ</sub>ヲ思ハサ  
ルノ處分ニシテ遠慮無キニ似タレバ姑ク彼ニ  
抗衡<sub>ハリ</sub>氣鋒ヲ堪忍ビ其狡黠ヲ以テ理非反對ノ逆  
論ヲ責ズ童彼ガ督促ヲ塞グマデニ平穩ノ返翰  
ヲ投典シ神奈川奉行ノ説ノ如ク面接ニ徐々ト  
説キ示サバ<sub>オソツカラ</sub>自<sub>オソツカラ</sub>然義理徹底ニ至ルベシ怒ニ辨駁  
セバ後日ノ應接法滞シ談判最モ益結ノ煩アル

夕  
奇  
者

ハ的確タリ因テ一時姑息ノ措置ニ因循ノ日ヲ  
將リ又為方ノ無エズヤハト再ヒ衆議一變ヲ申  
稟辨駁ノ條案ニ書ハ進達ヲ止メ返翰案而已ヲ  
進出スル事トハ商議決定シタリシ也去ル十五  
日書翰到来同十八日譯成翌十九日井上河内ニ進達  
同日返翰檢撰ノ為メ返下同二十四日草案成奉  
行點檢各草案ニ鈐印ヲ加フ以後淨書シテ最前  
ノ來書譯文ニ附シ同晦日再ビ日人ニ返呈ス正

直収領同列ニ回達ス先是神奈川工商等ガ負債  
ヲ暴促セシヨキヲ難シ負債ハ其儘ニ閣手却テ  
彼ガ方ニ償贖ヲ収受スベシトノ請求ハ答フル  
書翰案ヲ草シ今月十四日三百三十五番ト題シ  
内廻シニ出シ同二十八日再ニ河内ニ進達子正月四  
日下リ神奈川方ハ達シ若泉太郎収領スト往復  
書翰取扱留ニ見エタレドモ往復書翰留ニ其草  
案ヲ脱ス抑此年間ノ書翰編輯ノ為ニヤ集綴ヲ

外務省

外務省



ハ的確タリ因テ一時姑息ノ措置ニ因循ノ日ヲ  
將リ又為方ノ無ラズヤハト再ヒ衆議一變ニ申  
稟辨駁ノ條案ニ書ハ進達ヲ止メ返翰案而已ラ  
進出スル事トハ商議決定シタリシ也去ル十五  
日書翰到来同十八日譯成翌日  
同日返翰檢撰ノ為メ返下同二十四日草案成奉  
行點檢各草案ニ鈐印ヲ加フ以後淨書シテ最前  
ノ來書譯文ニ附シ同晦日  
正直ニ返呈ス正

直収領同列ニ回達ス先是神奈川工商等ガ負債  
ヲ暴促セシヨシヲ難シ負債ハ其儘ニ閣手却テ  
彼ガ方ニ償贖ヲ収受スベシトノ請求ハ答フル  
書翰案ヲ草シ今月十四日三百三十五番ト題シ  
内廻シニ出シ同二十日正直ニ進達子正月四  
日下リ神奈川方ハ達シ若泉太郎収領スト往復  
書翰取及留ニ見エタレドモ往復書翰留ニ其草  
案ヲ脱ス抑此年間ノ書翰編輯ノ為ニヤ集綴ヲ

外務省

外務省

外務省

放シテ一紙一紙ニ編次セシ體ナレバ若シ散逸  
シ綴洩シタルモ知ルベカラス因テ于此書翰ヲ  
掲載スルニ所由ナシ後日草案ヲ搜索シ追補ス  
ベシ却説モ文久三年モ暮レ翌レバ同四年  
三月  
朔日元治ト改元セラル○清同  
治三年○洋千八百六十四年 正月四日旧臘晦  
日正直ニ進達スル所ノ返翰案ヲ交還シ施行ス  
ベシト指令ス奉行其旨ヲ奉リ文久三年亥十二  
月晦日ノ日附ヲ加ヘ則同日神奈川方へ交付鈴

木尚三郎收受即尅横濱ナル亞國公使ニ傳達ス  
返翰案前ニアリ又同日旧臘晦日亞公使ヨリ進  
出スル所ノ第十八号千八百六十四年第二月五  
日附ノ書翰譯成左ノ上申ヲ附シ進達ス  
亞國公使ニ差上候書翰之後三月申上候書翰  
外國奉行  
今般亞國公使ヨリ西手前候方へ宛書簡封差出  
候ニ片披封翻譯一覽仕候處去十二月廿四日附シ以彼  
方中國へ西使前被差出候云々被仰仕候西書

外務省

簡一對、尚、緬、辯論申越、復、儀、其、終、以、聞、捨  
難、古、成、儀、也、以、在、其、百、今、一、原、以、辯、駁、古、成、其、方  
可、然、我、二、奉、存、其、且、長、州、登、彈、一、條、有、彼、方、並、以  
申、在、其、高、船、儀、金、之、儀、尚、又、其、度、申、出、其、百、金、子  
以、波、方、之、儀、其、何、也、也、今、暫、以、其、符、其、根、波、仰、也  
出、可、然、依、其、其、同、公、使、より、旧、冬、善、出、修、長、書、簡、之  
其、内、善、福、寺、燒、失、其、外、之、儀、其、月、移、其、其、根、之、臆、説  
其、証、言、等、主、張、説、其、是、又、儀、金、之、申、立、居、其、儀、子

外務省

其、在、其、其、旧、冬、私、共、不、申、上、其、通、り、松、平、大、膳、大、丈、方  
急、速、以、取、乳、之、上、以、裁、判、古、成、右、高、船、之、儀、金、其  
早、以、波、一、彼、我、之、曲、直、判、然、以、取、捌、有、之、波、且  
右、一、条、其、獨、同、國、而、已、其、以、外、佛、蘭、五、國、一、也  
關、涉、之、儀、其、其、既、其、蘭、公、使、其、旧、臘、書、翰、を、以、申、出  
尚、甲、斐、其、肥、後、寺、一、申、立、其、趣、也、其、在、其、其、一、其、其、方  
早、其、何、其、其、波、其、處、立、其、成、其、根、其、波、儀、之、其、返、簡  
案、取、洞、立、合、後、其、申、談、其、既、申、上、儀、以、上

外務省

外務省

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

第千八百六十四号

外務省

許容をふさぎむべしとの希望を抱きしむる共  
之より由り太平を恢復すべしとの希望を抱きしむる共  
長州侯の墓場より亞米利加の蒸氣船ベムブロ  
ーウへ放砲し多るを台下心痛するの證を表す  
るハ大統領より満足すべしと雖も台下約束し  
多る償金を拂はされハ右船主之を為日之損失を  
清らうあり右の如く心痛の證を表すとも大統  
領於之を萬々心得するハ台下驚く事なる

るへし  
大統領ハ友國間最も懇親ある交を為さんこと  
を帝子大君殿下の政府も同様の希望を抱け  
るを善知あるハ大統領の天子様とある所○然れ  
ども和親の基くこの根源ハ次件にあり即ち刑  
國人を彼國人を害することなく若し法外ある  
もの他人を害することあれば害を清け多る若し  
速ニ其償を為さへし

外務省

乱暴ある悪人ありて國法を破る。其國の取  
あらに○不幸にして其國法を破る者其國  
皆是ありといへとも唯其破法人を罰するを急  
り之に由る懇親の國へ害を加へ其償を為さ  
るに至り初る彼の政府へ對して其政府の任  
を急ると云ふべし但し彼政府は其の政府の信  
義を執るに其の國ありて其國の文を執るに  
合衆國と懇親を保んと台下の希望する證を

大統領於て救ふ思ふべしといへとも條約を  
損害を改るの趣意を欠き多し○罪人ありて  
右の如き損害を加へ多しと明白に報するに日本  
の恥辱ありとの誹詞は大統領於て蓋しせば  
るべし其故を罪人の孝國に限らば何れの國  
にもあるものふれをふり○其の如き憲法の慶並  
に合衆國の臣民を害するときは大統領於て  
之を罰し償を拂ふべしと促すの正理あり而

一、此の如き損害を以前指起り多ることあり  
一、且方今も尚其事あり  
一、台下ハ好々通り幾度子とも合衆國へ使節を  
送る爲め十分の正理あり然れども余打明け次  
件を告ぐ、使節ハ口より懇親を云へる國より  
来れるものふれハ他分懇親を以て待遇を  
雖も先般貴國使節の受け多る如き眞実懇親  
の待遇ハ其能く其友を台下大統領より我

訴をへし思へる損害を改めされば故に  
大君殿下政府の證據より報告する所と其事  
實の處置とハ甚速あり、然歎をへきことなり  
恐惶敬白

日本在留合衆國のミニストルレシテント

ロベルトエック。プライン手記

子三十番  
一、亞國公使へ可被差送り返輸案

亞墨利加合衆國ミニストルレシテント

外務省

外務省

エキセルレンシ

ロベルトゴチプライン

貴國茅二月五リ附之書翰為在畫中錄述之趣  
逐次領解せしといへとも我々政府之目的若余等  
之方寸を成る末示と異同あせハ尚一二論駁せ  
ざるを以て畫中茅一條ニ國內不穩を政治に  
關するより儀を至る確論ふれど抑我國內  
物情之懸念ありさるハ鎖國の旧習人心に結ぶれ

今も氷散しかばきよりの事ふれば右鎮靜の方  
法ハ是迄種々高後を盡せしかど結局國論之  
可否人心の向背ニ懸い一時權宜之措置を以  
て先之を挽回し然る後漸々矯揉之次序を  
進ぶる外他之良策ハ有之可敷思ひぬ故に神  
奈川鎖港之一事をも余儀なく其許迄申入且  
右等事情各國政府へ演説の為使節をも差遣  
せし次身子有之第二條長州洋行て發彈子出逢

外務省



いゝ英國高船候金之儀又條々辯論之趣もあ  
れど右条素より我國人之粗暴より英國高人不  
急之損失を請け一二年敢て其償金を差  
拒之右載漸方筆筆閑置之をあらねども兼て  
外國奉行田村肥後守業田日向守を以申合し  
次第も有之金子渡方期限之儀今暫く被相  
待多依條一度將英國と條約取結いゝ以來我  
方懇親之儀ハ渝らねと前条申述し通り國內

民情于今大定之期日至らせられ諸事掣肘之  
妨碍ありと右懇親之儀も十分表はる能はさ  
るより未前之如く形度差をせし使節之儀の  
其本國於ての待遇方先渡の使節に及る儀も  
もあるへんれと全く形方百端之事情いまだ其大統  
領へ貫徹せざる事とおもへば是又之餘儀次第  
ありとや且我方政府の報告する處事實の處  
置と去速有之方申越きしと詐譎を以國交

を保全すべし之理あるべしと云ふ言を待たれども  
前条陳述之次第より一時事意の儘ありされども  
然不始合之儀も可有之と朝暮憂之憂はるべき  
友をハ甚詳にも支國交際ニ注意せらるる余等  
之意衷を付彼ありれども其方不得止事懐逐  
一其政府ハ彼申通其大統領飲へも不要被思取  
根紹介有之彼右回答旁世既申入候拜具謹言

文久四年正月四日 水野和泉守花押

十一月十六日 亞爾公對其國井上河内守花押  
同月廿六日 右返翰案交還施行ベシト指令アリ  
シカバ則本日ノ日附ヲ加へ即時神奈川方へ遍  
送ヲ委托シ横濱在留亞公使へ傳達サセシム如  
此數件ノ難事一時ニ輻湊シ政府頗ル措置ニ困  
却ス其央客歲十一月廿七日幸漏生船品川ニ来  
リ同十二月十三日本條約ヲ結ビ十二月廿八日

事務

瑞西船品川ニ入津通交ハ條約結ハシヨシ昔ヲ促ス  
内地ノ事情ハ之ニ相反シ天朝屢幕府ニ勅  
シテ鎖港ノ實功ヲ遺ニ奏スベシト促サレ因テ  
池田筑後守河津伊豆守河田貫之助等ヲ使節ト  
シテ各國ニ航行シ鎖港ノ事ヲ議ルベシト命ス  
三士幕令ヲ奉リ十二月廿七日乘船開帆ス先是  
十一月十九日亞國公使其國書ヲ幕府ニ進呈シ  
鎖港ノ事世々ノ例ヲ以テ推セハ必ク兵端ヲ開

多クハシ外報ス此月五日大將軍再ヒ入朝ノ  
勅勅烈因時今般ハ陸行ヲ止メ軍艦ニ乘リテ十  
二月廿七日江戸海ヲ出帆シ海路ヲ經再ヒ上洛  
ス是而已ナラズ去年八月十二月江城ニ有司ヲ  
集メ鎖港ノ應接ヲ為スベシト大將軍親ラ命ヲ  
下セドモ其事行ハレズ同月十三日京都ニ於テ  
大和行幸神武天皇ノ山陵ヲ拜シ給ヒ春日  
山ニテ御親征ノ軍議アラセラルベキ旨勅

外務省

命アリシ以来播紳幕府ニ右スル者ハ其頃長州藩人望アルヲ嫉ミ皇朝廷ニ誣幕府ニ勸ヌ其間ヲ阻ム是幸於テ幕長之間彌割離豫テ志ヲ摸稜ニ持テ其間ヲ窺フ者漸ク時ヲ得長藩ノ聲威アリ公自立ノ深謀ニ出ツト浸潤ヲ殷行ハルヨリ皇朝廷陰ニ毛利家ヲ疎シ給フノ慮ニ乘シ長藩懷夷親征ニ勅命ヲ請フテ天下ヲ布ク是至尊ヲ挾持ス下ニ誦令セテ私欲スルノ私意アリ

ル昔ヲ膚受ニ懇ク朝廷忽ニ長藩ヲ疑ハセラレ八月十八日夜中川宮ヲ始播紳及會津中將以下武臣相會シ邊ニ事ヲ圖リ三條家以下月卿雲客及ヒ長藩ヲ擯斥スルニ至リ諸藩脱走ノ徒諸所ニ鳩合シ或ハ大和ニ暴突シテ十津川ニ籠リ或ハ祖馬ニ蜂起シ生野ノ縣令ヲ襲フト雖モ不日ニ征討アリテ一時鎮靜ス然レ氏自然人氣平穩ナラズ戦々兢々トシテ危殆アヤコマザルモノ無ク

外務省

天朝ニ於テハ外交拒絶ノ意宸慮甚嚴ニテ太宰  
帥熾仁親王ニ攘夷鎖港ノ別勅使トシテ関東  
ニ祭向ノ勅命アリ後日此事ハ止ラレシカド  
モ是ヨリ浮浪又諸方ニ出沒シテ攘夷ヲ唱ヘ或  
ハ士庶有名ノ者ヲ暴殺シ其首級ヲ梟首シ或  
江戸ニ於テ外國品販賣ノ者數名ヲ斬リ尚其商  
賈ヲ止メザル者ハ天誅ヲ加ヘ或ハ何地ニ放  
火シ灰燼ト爲ヌベシナドイハレザル不所謂告趣ヲ書記セ

シ張紙ヲ京及江戸府諸人群集ノ盛場ニ掲ケ  
看者ノ膽ヲ冷サシム此半處士桃井儀八権家ニ  
就キ浮浪千有余人上野ニ集リ横濱ヲ襲フノ謀  
議アリト自訴ス新田在住ノ岩松滿次郎モ此舉  
動ヲ傳ヘ聞鞍馬ニ鞭ヲ加ヘ馳來テ事ノ至急ヲ  
報告セシカバ又一層ノ動搖ヲ増シ俄ニ新令ヲ  
天下ニ布告シ五畿七道往還ノ士庶其管轄廳ノ  
符驗無キハ通行ヲ許サバレバ今ニモ變アルカ

外務省

ト疑ヒ巷説喋々オノツカラ自然人心縹カナラズ内外ノ多

難此時ニ湊合シ政府ノ恫疑大槩ナラ子バ縹便

ヲ主トシ正月旧記日隼人正竹本政明甲斐守竹

本正雅横濱ニ出張シ猶ホ一ツニガ一件談判丁

寧反覆ニ及ブトイヘドモ権之丞和一郎等ホ

ツニハ罪無キ旨ヲ云ヘルヲ以テ既ニ彼ガ禁

固ヲ解ケリ且彼ニ罪ナシトスル時ハ其冀望ニ

隨下カセセ小笠原島ニ歸住セシムルトモ誰カ之ヲ

不條理ト為シ且島民等ガホトツニ罪アリ

トスルハ彼ヲ憎シ在島ノ官吏ガ罪アリトテ囚

虜ト為セシ驥尾ニ附島ヲ追退ケントノ私情ニ

出レバ之ヲ以テ有罪トスルハ未ダ穿鑿ノ足ラ

ガルニ似タリ固ヨリ彼ハ極老ノ單身死期ヲ托

スルモノハ兼テ愛育スル所ノケレガ子ドモ而

已也今矍鑠也ト雖モ年齢已ニ八十有餘依令小

罪アリト云フトモ罪ヲ宥メテ旧ニ復スヲ是亦

小笠原島

誰カ非ト云ハシヤナド失當ノ應答熟談整フベキ  
注視無シ此儘互ニ言争ヒ月日ヲ將ル間ニ極老  
且病體ノホーツン若異變アラバ又一難事ヲ重  
又ベシ其他長藩ノ慶置モ未ダ機會ニ至ラズ然  
ルヲ各國一同シテ之ヲシ斯煩シキ中ニ鎖港ノ  
事アリ既ニ客歲九月亞蘭兩公使ヲ軍艦所ニ迎  
ヘ三港拒絶ノ書翰ヲ繳納シ横濱一港ヲ鎖サン  
昔ヲ談ズル共肯フ色ナシ鎖港談判馬関償金ノ

兩件ハ不容易大事件然ル大事ヲ闕キ勝テ小利  
ノ小事ヲ争フハ良策ナラズ今ホーツンガ犯罪  
ヲ辨論ストモ一旦彼方ニテ無罪トセシラ更ニ  
有罪ニ及サンハ最難シ彌無罪也トセバ何ヲ以  
テ歸島ヲ拒ン然レバ小事ハ彼ニ勝ヲ譲リ大事  
ノ談判ヲ纏ントノ遠謀ニヤ同  
文久二年旧記ニ  
四年日附ヲ  
又外國奉行連署シテ左ノ申稟ヲ閣老ニ進達  
シ其指令ヲ請フ

事務首

小笠原島に連系保罪人之儀并亞國三不ルハ川合筋之儀  
相伺候書并

外國奉行

去亥五月中小笠原島に連系同島在住之亞國人千日  
ハシホーツン罪犯之儀并旧冬伺之上事情心得及支  
配向并江川太所在島に鉄砲方并附中浪万次郎由小人  
月并共振浪表へ善也亞國コニシユルハ談判為致及慶  
右支配向万次郎等之取計方并コニシユルも聊不  
筋手為等之儀云云三月亥早引合ニ及不及法リ

世上下内手前振方云々ニストル之漸次可有之者  
コニシユル申張居矣趣二月并論中身人正甲斐也  
振浪表へ出張之節前件之次牙柄及談判及  
ハ共對話書云々以テ申上矣通リ彼是善健漸次ニ  
相成矣矣二月并浪初共之内不同所へ罷越矣并  
旧冬及引合矣支配向并万次郎由小人月并召連  
罷越公使眼前ニ有コニシユルニ密合セ巨細談判為致  
多振仕度將右ホーツン儀云々初彼方ハ引渡矣砌



同島居留之夷民古々差出假證査之也古波  
同船ニ有連来リ久證人古近也有之古儀ニ片支配  
向之者古等々巨細申候之儀古等々片ニ至リ古  
證査等々も疑ふ且ホ一ツニ所持言價之物品並子供  
等々も同島へ残一並々趣申立候之苦情主張仕居  
古へ共前書實地ニ就き取扱古者不令一應詰論  
為及古之支之齟齬之次第有之彼方不致存之  
儀も古頭礼可申武奉存古片候彼方於之古子

其罪を差許小笠原島へ再い歸任為改度古活  
申立古上之概差留古船ニ古古成並古理合  
二月結弓彼方存寄次第便給等々可古送尤古  
失費此方於之古掛古船夫之等々一端之罪状分  
明之上古彼方於之仕掛古古之儀ニ有之古活  
ホ一ツニ儀格別ニ老人ニも有之體裁等々於之古  
事實惘然ニ古是古古出格之厚意を以て船中  
旅費等々之為め洋銀千トルル川船差等々可申古

間早、可然取斗、了申、公使コニユル等へ申、法  
取纏め、方、可有之、我ニ奉存、多ホ、ツ、儀八  
十、有余之、老年、る、殊ニ、病、氣、之、趣、を、も、申、唱、居、矣  
儀、二、月、何、時、病、死、之、初、也、難、計、唯、互、ハ、ニ、申、争、ハ  
世、停、時、日、を、お、移、居、候、へ、又、如、何、振、之、所、而、於、右、生、来  
可、申、我、も、心、配、仕、矣、百、前、文、之、趣、可、然、も、思、召、矣  
ハ、早、之、所、下、知、所、應、多、振、仕、度、候、之、世、限、奉、伺、候、以上  
其、子、二、月、竹、本、隼、人、正

竹本 甲斐文吉

小笠原 堪津吉

田村 肥後吉

覚

書面伺之通可被取計候事

指令ノ月日  
日記ニ脱ス  
右ノ書取ヲ附シ進達ノ申票ト俱ニ  
交還アリシカバ奉行相議ルニ最前此事件ノ應

外務省

接セシ所以アレバトテ甲斐守竹ニ委ユヌ甲州擔

當シ横濱ニ往向ヒ公使岡士等ニ面晤談判數回

ノ後事ノ是非ハ姑ク閣キホリツシガ宿老ニテ

鰥居且病體ヲ恤レミ一身ノ眷養並護送ノ費用

トシテ洋銀千弗ヲ支給スベキニ決シ公使快然

兼諾過ニ整ヒ事件一切ヲ交受キウウケ後日ノ異論ナカ

ラシムヘシト要言ヤクゴンス于此至リ全ク談判シヨミ注視ノ

如ク整ヒ歸府シテ應接ノ顛末ヲ具狀シ同四月

廿日一件決着謝辭ノ書翰案ヲ草シ尚同廿二日

眷養並護送入費トシテ賜金贈典ノ添翰ヲモ草

シ俱ニ同廿四日正名ニ進出同廿七日左ノ神奈

川奉行ヘノ達書案ヲ附シ交還ス

神奈川奉行ハ達案

覺

亞國ニニストルヘ外國奉行より別紙寫之通書簡

差多奈澤其意其地稅銀ニ内を以亞國ニニ

事務

外務省

ストルハ可被相渡多事  
古々如ク指令アリシカバ同廿九日閣光連署一  
通外國奉行連署一通ヲ神奈川方へ交付三坂益  
輔交收直子に公使へ遞達ス其書翰左ノ如シ  
川奉旨洋銀壹千圓  
亞墨利加合衆國ニストルレシテト  
エキセルレンシー  
口ヘルト子チプライン  
以書翰申入係小笠原島在民ホーツン一条有秘

外國奉行所本甲斐守より同人存意之秘其許返  
古談及い一處早速差遣せられ兼る被申立帳  
書紙間廢紙ヲ附せられホーツン之事ニ付る我政  
府之關係多クニ治定致一多談判之顛末始終  
兼知古々其許ノ友國懇親永續之真意を表  
せられ多事不堪感謝右申入度拜具謹言  
元治元年子四月廿九日  
板倉周防守花押

井上河内守花押

外務省

夕務

收野周防守花押

亞墨利加合衆國ニストレシメント

エキセルレンシー

以去報申入假貴國人シヨートンニシホーツンニ儀ニ并其被

甲斐守より候判及い一處右一事大其許被

之ニ并洋銀千弗差送り多百枚有之候様致

元治元年子四月廿九日 竹本隼人正

竹本甲斐守

小笠原振津守

柴田日向守

土屋豊前守

同五月四日神奈川方ヨリ左ノ書ヲ達シ来ル至  
于此交収異議ナク濟ミテ一件全結局ス

ジラニジホットン名人のため江戸より送れる洋銀

一千枚の言を合衆國コンシユル、コロ子ル、シラルジ、エ

ス、フ井スセル氏ヲ神奈川運上所長官拂ひ賜ふ

へし但此書の下ニ記ある洋銀書を以充分多

るへし

千八百六十四年才六月六日神奈川

在日合衆國ミニストルレシデント

ロヘルト、エツチ、プロイン識

在日本神奈川合衆國コンシユル所おろく

千八百六十四年才六月六日今日上ニ載る洋銀

一千枚を神奈川運上所より送るせり

合衆國コンシユル

事務

外務省

合衆国 ジェルニ、エス、フ井スセル

岡士  
所印

岡士所印  
合衆国  
ジェルニ、エス、フ井スセル  
...

